

入試までに
何をすれば
いいの？

中小企業診断士との
違いは？

予備校を
利用する
メリットは？

志望校の
選び方は？

国際認証とは？

MBA
ランキングとは？

受験
対策は？

MBAで
学ぶ意義は？

入試は
いつ？

準備期間は
どのくらい必要？

必要な
学習量は？

入試の
流れは？

MOTとの違いは？

初めての 国内MBA入試 ガイドブック



AGAROOT
ACADEMY



アガルートアカデミー MBA専門 YouTubeチャンネル

- アガルートのMBA専用YouTubeチャンネルでは、試験対策に欠かせない情報が盛りだくさんです。
- 受験を検討されている方は、右記QRコードからは非ご視聴ください。



アガルートアカデミー国内MBA専用 X (旧 : Twitter)

- アガルートのX (旧 : Twitter) 公式アカウントでは、MBA入試受験対策のお役立ち情報などを日々発信中。セール情報やイベント情報もお届けしています。
- 受験を検討されている方は、右記QRコードからは非ご確認ください。



アガルート公式LINE

- アガルート公式LINEでは、限定クーポン、セール・キャンペーン情報、試験情報などお役立ちコンテンツを配信中。
- 右記QRコードからお友だちに追加し、情報を手に入れてください。



CONTENTS

MBA取得のメリットとは？	4
現在地から見る選択肢とキャリアパス	5
Master of Business Administrationとは？	6
MBAについて知ろう	6
MOTとの違い	7
中小企業診断士との違い	8
MBAランキングについて知ろう	10
MBAの国際認証について知ろう	12
国内MBAの大学院を見てみよう	14
国内MBAにはどんな種類があるの？	18
志望校をどうやって選ぶ？	23
ゼネラリスト型MBAとアカデミック型MBAを知ろう	23
国内MBAの難易度（受験倍率）を知ろう	24
実務経験がない大学生でも国内MBAを受験できる！	27
入試の詳細と受験対策	28
国内MBA入試について詳しく知ろう	28
国内MBA受験対策に予備校を考えてみよう	32
国内MBAに入学するメリット	34
国内MBA取得の4つのメリット	34

(本冊子は2024年11月時点の情報に基づいています)

MBAを目指す皆さんへのメッセージ

皆さんに筆者からのメッセージをお送りします。人生は一度しかありません。時間という資源は有限であり、お金で買うことはできません。そんな貴重な資源である時間を有意義に使うためには、人にコントロールされた状態で時間を使うよりも、自分で自分をコントロールする自由な生き方こそ価値ある時間の使い方だと思います。人に与えられた時間は有限です。その時間という資源をどう使うのか？今、真剣に考えてみてください。

また、日本は人類史上初の少子高齢化を迎えます。このようなマクロ環境の変化の中では、日本企業も変革をしなければ生き残ることはできません。マクロ環境とは、少子高齢化、原油価格の上昇、ウイルスの発生など、企業や個人ではコントロールできない要因のことです。このマクロ環境の変化が進行する中では、日本で働く人々も、これまでの仕事のやり方、仕事に対する考え方を変えていかなければなりません。これらを変えるには、

そもそもの話として、産業構造の変化、ビジネスの変化についての根本的な原理原則を知る必要があります。そのビジネスに関する原理原則を学ぶ機会を提供しているのが国内MBAなのです。

アガルートアカデミー
国内 MBA 試験講師

飯野 一



ウインドミル・エデュケーションズ株式会社に代表取締役を務めながら受験指導をおこない、約20年間にわたる指導経験を有する国内MBA受験に精通したプロフェッショナル講師。講義で使用するテキスト等は過去の指導経験を踏まえて練り上げた、いわば「至高の教材」。アガルートだけでしか入手できない飯野オリジナルの教材と、聞く人を魅了し、聞かずにはいられなくなるようなカリスマティックな講義を提供する。

国内MBA取得のメリットとは？

国内 MBA 大学院に興味はあるけれど、実際のところどうなのか、学費と時間をかけて取得するメリットはあるのかが気になる方のために、ご紹介いたします。

1 ビジネススキルを高めることができる



国内MBAでは、経営学の基本理論を学び、戦略立案、マーケティング、財務分析、リーダーシップ、組織マネジメント、プレゼンテーションなど、実務に直結するビジネススキルを幅広く身につけることができます。英語力を高めることも可能です。

2 キャリアの選択肢が増える



国内MBAに進学すると、経営に必要なスキル全般を身につけることができるので、①経営に近いポジションに昇進したり、②コンサルティングファームへの就職・転職が実現したり、③仲間と起業するという選択肢も増えます。

3 海外に比べてローリスクで一定のリターンを得られる

MBA 修了前後の賃金上昇額の平均

プログラム	MBA 修了前	MBA 修了後	賃金上昇額
全体	724.39 万円	1,178.69 万円	436.58 万円
海外 MBA	701.52 万円	1,247.78 万円	546.25 万円
国内 MBA	799.66 万円	888.46 万円	88.80 万円

参考：慶應義塾大学学術情報リポトリ「海外MBAと国内MBAの比較：個人の投資収益率とコスト・ベネフィットの推計から」清水隆介

海外MBAの場合、リターンが大きい一方で、入試まで多くの時間と労力がかかり、仕事を辞め、生活拠点を移す必要もあるため、リスクが非常に大きいです。これに対して、国内MBAの場合、現職に勤務しながら生活基盤を移すことなく母語で経営学を深く学ぶことができ、ローリスクで一定のリターンを得ることができます。

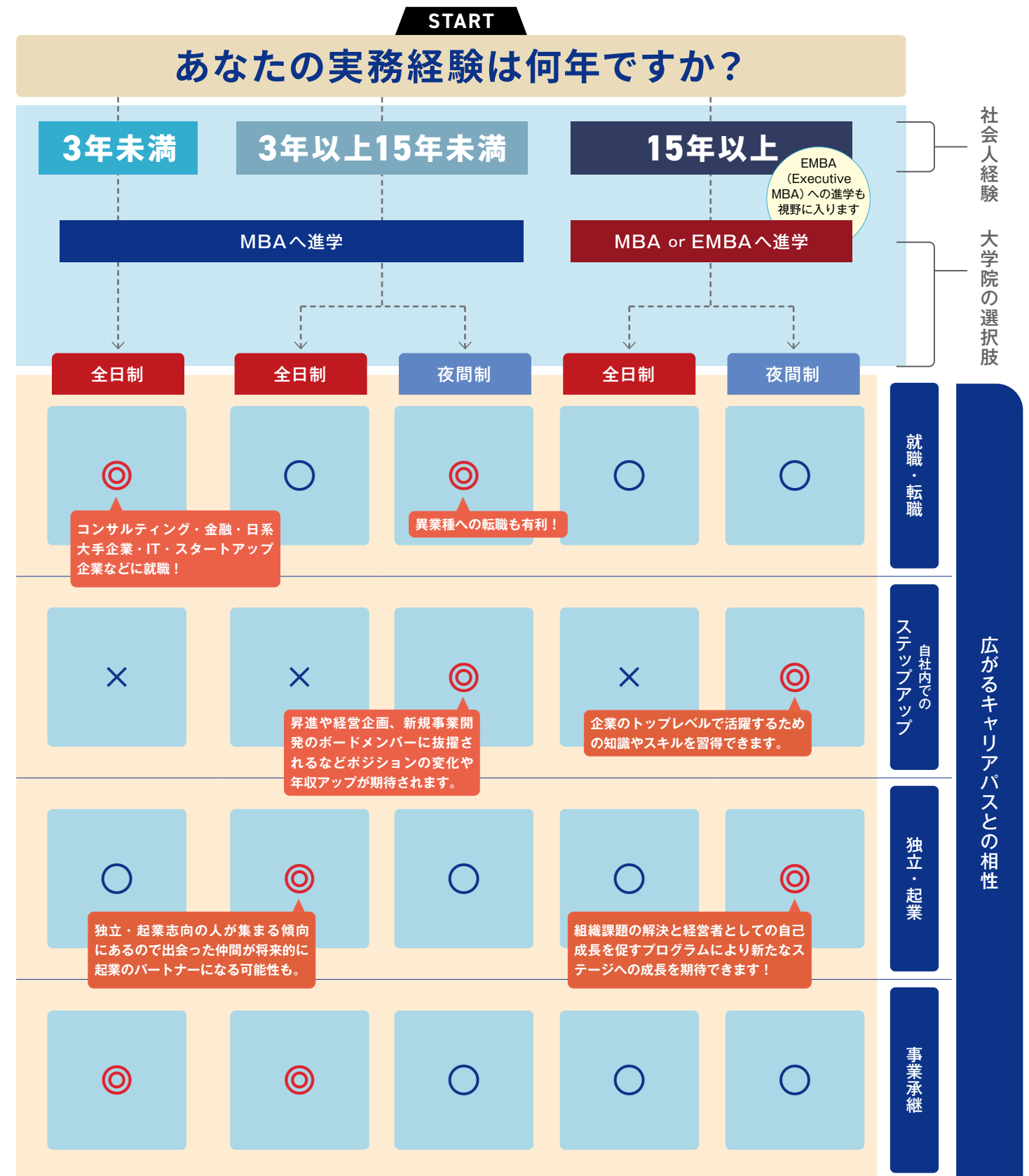
国内MBA取得で年収がUPするメカニズムとは？

アガルート講師の例では年収が2倍になったといえます。そのメカニズムは図のようになります。単にMBA取得のために大学院に行くだけで年収が上がるわけではないことがわかります。



現在地から見る選択肢とキャリアパス

MBAとは経営学修士の学位です。大学院修士課程の学位のため、資格ではありません。取得するには大学院に在籍し、所定の単位を取得する必要があります。入学後は経営学について学び、修了要件を満たすことでMBAを取得できます。受験するためには実務経験年数に条件が課されているケースもあります。また、夜間制か全日制か、大学によってMBAプログラムを提供している時間帯が異なります。まずは自分にどの選択肢があり、通うことでどんなキャリアが描けるのかを見てみましょう。



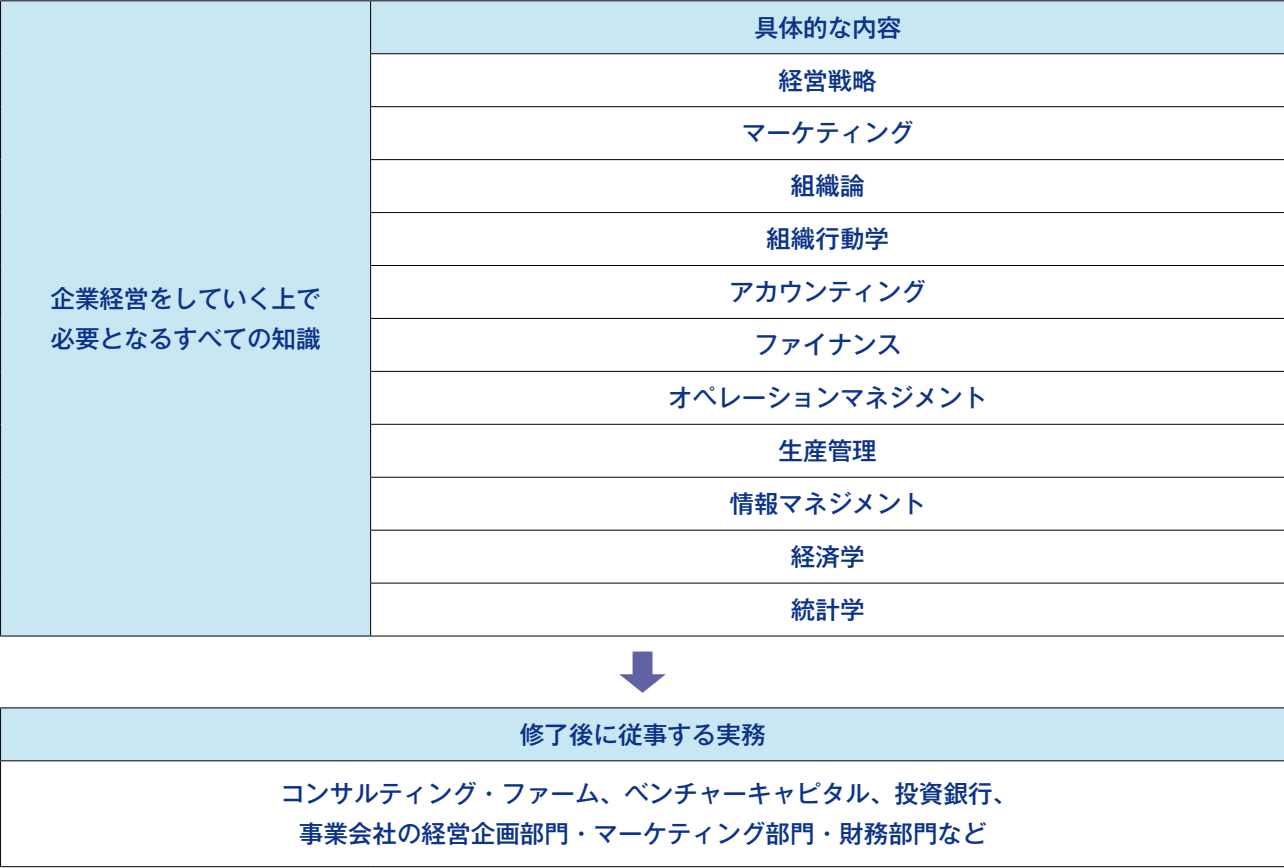
Master of Business Administrationとは？

MBAとは、Master of Business Administrationの略で、日本語に直すと、経営学修士号もしくは、経営管理修士号と呼ばれる学位です。この学位は、経営学の大学院修士課程を修了すると授与されます。

MBAについて知ろう

MBAでは、企業が利益（経済的価値）を出して、永続的に存在するための経営管理手法を学びます。学ぶ内容は、経営学に関する全般的な知識です。具体的には、経営戦略、マーケティング、組織論、組織行動学、アカウンティング、ファイナンス、オペレーションマネジメント、生産管理、情報マネジメント、経済学、統計学など、企業経営をしていく上で必要となるすべての知識を学びます。このように経営学全般に関することを学ぶため、修了後は経営者、起業家となる方や、コンサルティング・ファーム、ベンチャーキャピタル、投資銀行、事業会社の経営企画部門・マーケティング部門・財務部門などで実務に従事する方が多いです。

MBAで学べる経営学に関する全般的な知識



MBAはどのように成り立ったか

MBAの歴史をたどってみると、1881年にウォートン・スクールが最初のビジネススクールとして設立されました。そして、1920年代にはハーバード・ビジネス・スクールが状況分析と経営判断の能力を訓練するケースメソッドという教育アプローチを開発し、この方法は多くのビジネススクールに採用されるようになりました。日本では、慶應義塾大学大学院経営管理研究科（KBS）が1962年に創立された、最も歴史のあるビジネススクール

です。現在では、全国の大学院でMBAコースが開講されています。国公立大学では京都大学、神戸大学、大阪大学、兵庫県立大学、筑波大学、東京都立大学、横浜国立大学、一橋大学、東京科学大学（旧東京工業大学）、北海道大学、小樽商科大学、九州大学などで開講されています。私立大学では先の慶應義塾大学以外では、青山

日本でMBAコースが開講されている大学院

国公立大学	私立大学
京都大学、神戸大学、大阪大学、兵庫県立大学、筑波大学、東京都立大学、横浜国立大学、一橋大学、東京科学大学、北海道大学、小樽商科大学、九州大学など	慶應義塾大学、青山学院大学、明治大学、立教大学、中央大学、早稲田大学、東洋大学、多摩大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、名古屋商科大学、グロービス経営大学院など50以上の大学

MBAで学ぶ意義はなに？

まず前提知識として、MBAで学ぶ意義を簡単に説明しておきます。MBAで学ぶ意義として最も大きな点は、企業経営に関するゼネラリストとしての知識が得られることによって、将来、経営のポジションに就くための準備ができることです。日本の場合は崩れてきたとはいえ、いまだに多くの企業が年功序列を採用しています。そのため、経営のポジションに就くのは比較的年齢が上がった時点になります。それまでは現場で一つの職能のプロとして仕事をしていきます。一つの職能というのは、営業なら営業だけをする、製造なら製造だけをする、ということです。一つの職能のプロとして経験を積んでいった先に経営者としてのポジションが待っているというのが日本企業のマネジメントの実態です。しかし、そこには大きな問題があります。それは経営者というのは、す

べての職能（たとえば、営業、製造、研究開発、会計・経理、ファイナンス、マーケティング、全社戦略、事業戦略）を把握した上で意思決定をすることが仕事なのですが、一つの職能しか知らない人にはそれができないということです。

では、どのようにしてすべての職能に関する知識を得るのでしょうか？ その実務で学ぶことができない職能に関して学ぶ機会がMBAであり、MBAでの学習によって将来経営のポジションに就いた時に全社的な視点で的確な意思決定ができるようになるのです。以上のように、経営のゼネラリストとしての知識やスキルを得られるのがMBAなのです。そのため将来的に経営のポジションを担うビジネスマンに人気となっています。

MOTとの違い

MOTとは、Management of Technologyの略で日本語に直すと、技術経営修士号と呼ばれる学位です。MOTでは、製品開発における技術力をベースにし、研究開発の成果を商品・事業に結び付け、経済的価値を生み出すための経営管理手法を学びます。そして、技術をベースにした新たな価値創造ができる人材を育成することを目的としています。学ぶ内容は、MBAと重複する部分が多いのですが、技術と市場ニーズを結び付けるマーケティング手法・リスク管理手法、新たな技術を用いたビジネスモデル構築方法、創造力の育成法といった点がMBAよりも重視されています。修了後は、技術者を束ねる研究開発部門のリーダー（候補）、技術系のベンチャー企業の経営者、技術系

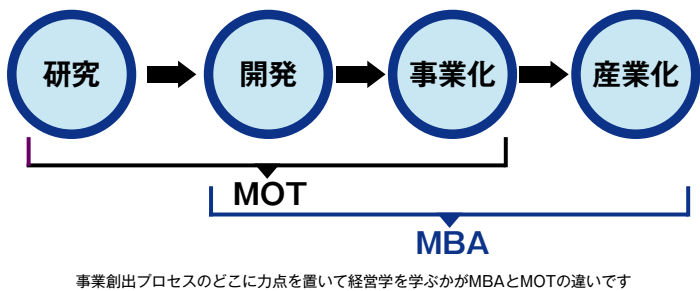
ベンチャーの起業などの実務に従事する方が多いです。次に、技術ベースの事業創出の4つのステージを用いて、MBAとMOTの違いをより根本的な点から説明します。技術ベースの事業創出には4つのステージがあると言われています。4つのステージを時系列的に整理すると、「研究」→「開発」→「事業化」（商品化）→「産業化」となります。「研究」を進めて技術を市場ニーズに結び付け、具体的な製品の構想（イメージ）ができなければ「開発」ステージに進めません。「開発」ステージに進んだものを製品として仕上げ、

適切な経営資源を配分し、製造・販売して売上までつなげられなければ「事業化」（商品化）ステージには至りません。

「事業化」（商品化）を成功させるためには、競争優位性を構築し、多くのライバル企業との生き残り競争に勝つ必要があります。これが実現できなければ「産業化」ステージには到達できません。

新規事業創出の成功確率が低いと言われる理由は、このプロセスの困難さに示されていると思います。

各ステージへの移行時の障壁を乗り越えていくという不確実なプロセスにおいて、いかに成功への確度を上げていくかが大切になります。



中小企業診断士との違い

ここでは、MBAと中小企業診断士の違いについて説明します。

中小企業診断士は、経営コンサルタントとしては唯一の国家資格です。国家資格ですから、国家資格試験に合格することで取得できます。中小企業診断士試験に合格するために学ぶ内容は、MBAとほぼ同じですが、正式な試験科目名としては、「経済学・経済政策」「財務・会計」「企業経営理論」「運営管理（オペレーション・マネジメント）」「経営法務」「経営情報システム」「中小企業経営・中小企業政策」の7科目となっています。この中で、「中

共通することと違うこと

では、MBAと中小企業診断士の共通点と相違点について説明します。

共通点の1つ目は、経営学に関する全般的な知識を学ぶことができる点です。先に説明した通り経営のポジションに就くためには幅広い分野を学ぶ必要がありますが、MBAも中小企業診断士も、どちらも経営学に関して全体的に学ぶことができます。

2つ目は、修了後（取得後）のキャリアにおいて、独立することが可能な点です。副業が解禁になり、終身雇用が崩壊しつつある日本において会社に依存した生き方はリスクが高いです。自分の専門性やスキルを持って、自立して生きる道を模索する必要があります。その際に自身の専門性やスキルを高める手段として、MBA

MBAやMOTでは、その方法論を学ぶことは共通していますが、どのプロセスに力点を置くかが異なります。

具体的には、MBAでは上記ステージの中で、「開発」「事業化」「産業化」ステージでの経営管理手法を学ぶことが中心になります（ただ、「研究」「開発」を学ばないということではありません）。MOTでは、「事業化」を意識しながら、「研究」「開発」ステージでの経営管理手法を学ぶことが中心になります（ただ、「産業化」ステージを学ばないということではありません）。

小企業経営・中小企業政策」は中小企業診断士に特有の科目です。中小企業診断士は、中小・零細企業向けのコンサルタントのため、「中小企業経営・中小企業政策」に関して深く学ぶ必要がある点は納得できると思います。資格取得後のキャリアですが、実際に中小企業向けのコンサルタントとして独立する方、今勤務している会社の現在の業務で、中小企業診断士で学んだ知識を生かす方、コンサルティング会社への転職といった形で資格を生かす方などさまざまです。

も中小企業診断士も非常に有効です。

次に相違点です。1つ目は、学位か国家資格かの違いです。この違いが大きく影響する例として、経営コンサルタントとして独立する場合があります。中小企業診断士は国家資格のため、国に認められたコンサルタントとして、顧客の信用を得やすく、顧客獲得がしやすいと思います。MBAは学位のため、コンサルタントとしての能力を認めるものではありません。そのためMBA修了後にコンサルタントとして独立した場合に、中小企業診断士と比較すると顧客からの信用度は低いと思われます。

2つ目は、学び方の違いです。中小企業診断士は資格試験のための勉強をするので、学び方は自分でテキストを暗記したり、過去問を解いたりすることが中心です。

基本的に一人で勉強します。MBAはケース・スタディで学ぶ大学院が多いです。ケース・スタディとは、企業の事例（ケース）をもとに、個人分析→グループディスカッション→クラスディスカッションという流れで、ディスカッションを通して事例を学ぶ方法です。ケース分析の予習は一人でおこないますが、授業ではグループでディスカッションをしながら、同じクラスの生徒と一緒に学ぶことになります。クラスの生徒は日本人だけでなく海外からの留学生も多く存在するため、多様な文化の中でさまざまな意見に触れられます。このようなグループでのディスカッションを通して、組織をまとめるリーダーとしての素養を実践形式で学ぶことができます。この点は中小企業診断士とは大きく異なっていると思います。

3つ目は、人脈形成のチャンスの有無です。MBAの

多くは2年制の大学院ですので同学年の学生同士は密なつながりを持ちます。これは大学の同期などと同じです。大学時代の同期というのは一生の友人につながる関係だと思っています。この一生のつながりといえるビジネス上の仲間が、MBAの大学院生活の2年間で形成されます。この関係はMBAを修了した後も一生途絶えることのない貴重な人脈として大きな財産になります。例えば、起業する際に、同期の学生を誘って一緒に起業したり、大企業に勤務する友人が役員に昇進した際などは、同期が勤務する会社同士で業務提携をおこなったりすることがあります。中小企業診断士の場合は、国家資格であるため、MBAのような同期とのつながりはそれほどできません。この人脈形成のチャンスは、MBAと中小企業診断士との大きな違いだと思います。

MBAと中小企業診断士の共通点と相違点

共通点	
経営学に関する全般的な知識を学ぶことができる	
修了後（取得後）のキャリアにおいて、独立することが可能	

相違点	
学位か国家資格か	
MBA	学位
中小企業診断士	国家資格
学び方	
MBA	ケース・スタディで学ぶ大学院が多い
中小企業診断士	テキストの暗記や、過去問を解くなどが中心
人脈形成の有無	
MBA	同期との密なつながりを持てる
中小企業診断士	同期とのつながりはそれほどできない

両方取得したい方へ

これまで読まれた方には、MBAと中小企業診断士の両方に興味を持った方もいらっしゃると思います。双方を取得したいと考える方には、双方を効率的に取得する方法がありますので、最後に説明したいと思います。

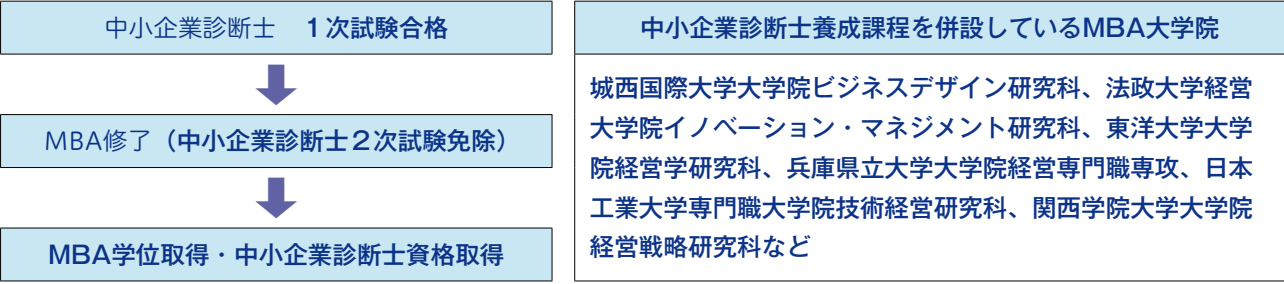
中小企業診断士の1次試験に合格している方が、中小

企業診断士養成課程を併設しているMBAに進学すれば、中小企業診断士の2次試験が免除になり、中小企業診断士の資格が得られます。中小企業診断士1次合格→MBA修了→双方を取得ということが可能になります。

この中小企業診断士養成課程を併設しているMBA大

学院には、城西国際大学大学院ビジネスデザイン研究科、経営専門職専攻、日本工業大学専門職大学院技術経営研究科、法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科、関西学院大学大学院経営戦略研究科、名古屋商科大学大学院などがあります。

MBAと中小企業診断士の双方取得する方法



MBAと中小企業診断士のダブル取得を目指す方は、まず中小企業診断士の1次試験のための勉強をします。1次試験7科目の合格が達成できましたら、次はMBA受験の勉強をし、上記大学院のいずれかに入学します。そしてMBAを修了すれば、MBAと中小企業診断士のダブル取得が達成できるのです。ぜひ挑戦してみてください。

MBAランキングについて知ろう

まず、MBAランキングとは何かを説明します。欧米では、日本の大学の偏差値のような序列が、MBAにはあります。それがMBAランキングです。高いランキングのMBAを修了した方が、平均給与が高くなったり、MBA取得前後での給与上昇率も高くなったり、キャリアアップの可能性が高くなったりします。ランキングの決定基準は、「卒業後3年間の平均給料」「MBA取得前

後での給与上昇率」「現在の給料に対する、MBA費用・期間に値する価値」「キャリアアップの程度」「目的の達成率」「学校のキャリアサービス」「研究でのランキング」「留学生の数」「女性の数」などの評価項目を総合してスコアが付けられます。そのスコアの高い順に並べたのがMBAランキングです。

MBAランキングと採用について

MBAランキング	
ランキング評価項目	卒業後3年間の平均給料
	MBA取得前後での給与上昇率
	現在の給料に対する、MBA費用・期間に値する価値
	キャリアアップの程度
	目的の達成率
	学校のキャリアサービス
	研究でのランキング
	留学生の数
	女性の数
日本企業での採用	考慮されない
外資系企業での採用・国外での活躍	考慮される

欧米と日本ではランキングの意味が全く違う

このMBAランキングが持つ意味は、欧米と日本では異なります。そこで、まずは欧米において、MBAランキングが持つ意味を説明します。欧米の企業は経営者が生え抜きではなく、外部からヘッドハンティングによって招かれる慣習が存在し、経営者という職業が成り立っています。そのために、経営者になってヘッドハンティングされることを望む場合は、MBAはその候補になるための条件として重要な要素となっています。欧米の企業の経営者の多くがMBAホルダーによって占められています。そして、その経営者候補となるためには、ランキングが上位のMBAを卒業した方が有利になりますので、MBAランキングは重要な意味を持ちます。

一方、日本ではどうなのかと言いますと、日本ではMBAのランキングはあまり意味を持ちません。どうしてそのように言い切れるのか、その理由を説明していきます。

日本でMBAランキングが意味を持たない理由は、日本の大企業の経営者（取締役、執行役員を含む）は生え抜きの社員が多くを占めているからです。日本の雇用慣行として、終身雇用、年功序列があります。従業員は一

日本でMBAを取得してどうなるのか

では、日本でMBAを取得する意味は何なのでしょう。この点に関して筆者の見解を述べたいと思います。それは、MBAという学位自体に意味を持つ欧米とは異なり、MBAで学んだ戦略構築スキルやマネジメントスキルを実務で発揮して既存組織のマネジメントスタイルの変革をすることです。これができるのはMBAを修了したMBAホルダーだと筆者は考えています。MBA取得によってすぐに昇進や給与が上がるといったことは、日本ではありませんが、MBAで学んだことを実務で生かすことで成果を出すことは可能です。この成果を出すことを積み上げていくと、将来的には経営者候補になる可能性は高まります。まさに実力でポジションをつかむのです。MBAを取得した人が、既存組織を変革して成果を出していくことは、日本の企業の成長性を高めることにつながります。日本の企業は年功序列ですから、この成果がすぐに給与に結び付くことはありません。しかし、日本の終身雇用や年功序列は近い将来、維持できなくなると思います。日本企業も、年功序列による生活給型の人事制度から成果型の人事制度への移行期にあると思います。将来的には、MBAが評価される時は来ます。その時に備えて、今は実力と経験を積み上げていく時期なのです。このようなMBA人材が増えることが、低迷する日本の経済が回復するキッカケになるのです。

現時点では、日本企業で働いている限りは、MBA＝

生一つの会社に勤務するケースが現在でも多いです（ベンチャー企業等は除きます）。そのため、社員は社内の階層構造のステップを一つ一つ上がっていき、最終的なステップとして経営者になるケースが多いです。よって、日本で経営者になるためには、経営者としてのスキル以前に、社内政治に勝ち残ることが重要になります。MBAは、経営者としての知識やスキルを身に付ける場ですから、終身雇用を前提とした生え抜きの社員が自然に経営者に昇進する日本ではあまり意味を持ちません。そのために、ランキングなどはまったく関係ないのです。その証拠に、皆さんの会社の人事部の方に、「採用の際にMBAランキングを参考にしますか？」と質問してみてください。ほぼ100%の確率で「NO」という回答が返ってくると思います。

ただ、日本にいながらも、外資系企業でキャリアを築いていこうと考えている方、日本から出てグローバルに活躍したい方は、MBAランキングを意識してもいいと思います。日本にいながら、日本の企業で働いていこうと考えている方には、これまで説明してきた通り、MBAランキングなどはまったく考慮する必要はないのです。

高い給与、高いポジションというわけにはいきませんが、それらを将来手にするためにも、今は仮に給与が低くてもめげることなく経験を積んで、成果を積み重ねていくようにしてください。近い将来は、日本でも欧米のように、MBA＝高い給与、高いポジションという時代が来ると筆者は考えています。

最後に、これから国内MBAを目指そうとお考えの方に、今やるべきことをお伝えしようと思います。今はランキングなどは気にせずに、自分がなぜMBAに進学しようとしているのか、という志望動機を考えてください。MBAというのは、経営学に関する全般的な知識を学ぶ場所です。具体的には、経営戦略、マーケティング、組織論、組織行動学、アカウンティング、ファイナンス、オペレーションマネジメント、生産管理、情報マネジメント、経済学、統計学など、企業経営をしていく上で必要となるすべての知識を学びます。では、皆さんは、なぜこのような経営学の全般的なことを学ぶ必要があるのですか。この点を考えてみてください。その際には、将来、自分がどうなりたいたのか、というキャリアゴールを考えるといいと思います。将来のキャリアゴールから逆算して、どうして今、経営学を学ぶ必要があるのかを考えるのです。皆さんの夢の実現は、この一歩から始まります。皆さんが、日本の企業の変革をしていくような人材になることを祈っています。

MBAの国際認証について知ろう

MBAにおける国際認証とは、国際的な第三者機関によって設けられた評価基準を満たすと認められたMBAが取得する認証です。主な認定機関は3つあり、アメリカのフロリダに本部があるAACSB（The Association to Advance Collegiate Schools of Business）、イギリスのロンドンに本部があるAMBA（the Association of MBAs）、ベルギーのブリュッセルに本部があるEFMD（European Foundation for Management Development）です。評価基準としましては、認証団体によって重視する項目が異なりますが、7つの評価項目を中心に評価しています。

無数にあるビジネススクールの中で、マネジメント教育の国際認証を取得することができれば、世界的に認められる水準のMBAプログラムであると証明されます。国際認証を取得するには、下記7項目を軸に設定された評価基準をクリアしなければいけません。また、認証機関

への報告書の提出、審査、認証機関の査察団による実地審査、など何年もかけて審査され、評価が決められます。

なお、上記の3大認証機関すべての認証を取得するとトリプルクラウン（Triple Crown accreditation）と呼ばれます。以下に、3つの認証機関について説明します。

認証団体の中心となる7つの評価項目

- カリキュラムに関する基準
- 学生に関する基準
- 教員に関する基準
- 研究に関する基準
- 国際化に関する基準
- ミッション、ビジョンに関する基準
- 財務状況に関する基準

AACSB（The Association to Advance Collegiate Schools of Business）

1916年にアメリカで設立され100年以上の歴史を持つ国際認証の代表的な機関です。ハーバード大学、スタンフォード大学など世界で30カ国以上、500以上の教育機関がメンバーです。認証には期限があり、取得したあとも5年ごとに審査を受け合格しなければ認証を継続することはできません。また、審査基準は改定され続けており、教員、学生、カリキュラム、研究など多岐にわたる内容で向上を求めることで、ビジネススクール全体の品質の維持・向上を支援しています。

AMBA（the Association of MBAs）

1967年にイギリスで設立された国際認証機関です。50カ国以上に拠点を持ち、日本では「MBA協会」という名称も用いられます。75カ国以上、260を超えるビジネススクールでMBA、DBA（Doctor of Business Administration、経営管理博士）、修士号プログラムを認定しています。AMBAの認定理念は、「インパクト」「エンプロイアビリティ」「学習成果」となっています。卒業生のネットワーキングの機能性や卒業生の長期的な成功と影響を把握し、MBAプログラムの学習成果を評価する仕組みを構築することを評価基準に定めている点が特徴です。

★日本国内のAACSB認証MBAと認証年

- 慶應義塾大学大学院（KBS） 2000年
- 名古屋商科大学大学院（NUCB） 2006年
- 立命館アジア太平洋大学（APU） 2016年
- 国際大学大学院（IUJ） 2018年
- 早稲田大学大学院（WBS） 2020年
- 一橋大学大学院（HUB） 2021年
- 立教大学（経営学研究科） 2024年

★日本国内のAMBA認証MBAと認証年

- 名古屋商科大学大学院（NUCB） 2009年
- 立命館アジア太平洋大学（APU、経営管理研究科（GSM）） 2020年
- 中央大学ビジネススクール（CBS） 2022年
- 同志社ビジネススクール（DBS、ビジネス研究科） 2023年

EFMD（European Foundation for Management Development）

1972年にベルギーで設立された国際認証機関です。日本では「欧州経営開発財団」という名称も用いられます。特徴としては、大学院等は明確な使命を持ち、そして各教育研究活動における戦略を立てることが重要であるとし、各評価基準の中にも戦略や方針の明示が評価の指標となる点が挙げられます。更新も必要で、3年認証、5年認証があります。

EFMDでは、EQUIS(EFMD Quality Improvement System)、EPAS（EFMD Programme Accreditation System）の2種の認証を実施しています。EQUISはEFMDが所定の基準を満たした研究科全体に対して与えられるものであるのに対し、EPASはプログラムに対して与えられるものです。そのため、MBAの3大国際認証とされた場合はEQUISを指します。

★日本国内のEQUIS認証MBAと認証年

- 慶應義塾大学大学院（KBS） 2011年
- 早稲田大学大学院（WBS） 2019年
- 名古屋商科大学大学院（NBS） 2021年
- 京都大学経営管理大学院（GSM） 2023年

★日本国内のEPAS認証MBAと認証年

- 明治大学専門職大学院（MBS） 2018年

<p>◆AACSB</p> <p>慶應義塾大学大学院（KBS） 名古屋商科大学大学院（NUCB） 立命館アジア太平洋大学（APU） 国際大学大学院（IUJ） 早稲田大学大学院（WBS） 一橋大学大学院（HUB） 立教大学（経営学研究科）</p>	<p>◆AMBA</p> <p>名古屋商科大学大学院（NUCB） 立命館アジア太平洋大学（APU、経営管理研究科（GSM）） 中央大学ビジネススクール（CBS） 同志社ビジネススクール（DBS、ビジネス研究科）</p>
<p>EFMD</p> <p>◆EQUIS</p> <p>慶應義塾大学大学院（KBS） 早稲田大学大学院（WBS） 名古屋商科大学大学院（NBS） 京都大学経営管理大学院（GSM）</p>	<p>◆EPAS</p> <p>明治大学専門職大学院（MBS）</p>

国際認証を取得した国内MBAで学ぶ良いところ

では、国際認証を取得した国内MBAで学ぶメリットは何なのでしょう？

国際認証を取得するためには、多くの基準をクリアする必要があります。また、認証を更新するためには、改定される評価基準に則って常に改善・向上を続けなければなりません。つまり、国際認証を取得したビジネススクールは、世界中で通用するマネジメント教育を受けることができ、MBA教育の質を保証されているといえます。さらに、国際認証を国内MBAが取得した場合、世界中のMBAを検討する留学生の目に留まりやすくなることもメリットです。多様な経験、価値観の中でグループディスカッションをおこなうことができるなど、授業の質も向上する良い相乗効果生まれやすくなります。また、同じ国際認証を受けている海外のMBAとも連携を取りやすくなるので、交換留学を考えている方や海外に目を向けている方にも良いでしょう。

国内MBAを修了後に世界各国での仕事をする方や、MBAホルダーが多い環境になる方であれば、他のMBAホルダーと差別化を図るためのブランディング効果もあるでしょう。

国内MBAでの志望校選びにおいて国際認証は意識すべきなのでしょう？筆者は国際認証の有無は気にしな

くていいと考えています。国内のMBAで国際認証を取得しているビジネススクールは、上記の通り多くありません。

では、国際認証を取得した大学院から受験する国内MBAを選ぶべきか？という点と違います。志望校を選ぶ際は、まず自分はどんな目的でMBAに行くのかを考えてください。MBAで学び将来どう働きたいのか？生きていきたいのか？それを実現するために必要なものを提供しているのはMBAなのか？

国内MBAと一口にいても、大学院ごとに特色があります。ケーススタディが中心のところもあれば、研究者を目指す方向けのMBAもあります。また中小零細企業やベンチャー企業を対象とした人材育成を目的としたところや日本での企業経営に重点を置いたところもあります。国際認証はビジネススクールを選ぶ上で大きな指標になりますが、国内MBAで学ぶことはあくまで目的のためです。将来のために必要なことを最優先に考え選ぶことをお勧めします。

もちろん、今後海外を拠点としたい、海外で働きたいという方は国際認証を取得したMBAを基準にすることも大きな意味はあります。自身の目的と、ビジネススクールの情報をしっかり読み込んで選んでいきましょう。

国内MBAの大学院を見てみよう

ここまでお読みいただき、MBAとは何か、という点をご理解いただけたと思います。

そこで、日本にある国内MBAをエリア別に紹介します。皆さんがお住まいのエリアに国内MBAがあるかどうか、どんな大学院があるのか、という点を把握していただこうと思います。

①北海道エリア

- 北海道大学大学院**
経済学研究科 経済学院 経済学部
● 札幌市北区北9条西7丁目
● 札幌駅徒歩8分 札幌市営地下鉄北12条駅徒歩8分

- 小樽商科大学大学院**
小樽本校 商学研究科 アントレプレナーシップ専攻
● 小樽市緑3丁目5番21号 ● JR小樽駅バス10分
札幌サテライト 商学研究科 アントレプレナーシップ専攻
● 札幌市中央区北5条西5丁目7番地 sapporo55ビル 3階
● 札幌駅徒歩3分 札幌市営地下鉄さっぽろ駅徒歩4分

②東北エリア

- グロービス経営大学院**
仙台校 経営研究科 経営専攻
● 宮城県仙台市青葉区中央1-3-1 AER26F ● 仙台駅徒歩3分
水戸キャンパス 経営研究科 経営専攻
● 茨城県水戸市南町3丁目6-8 ● 水戸駅徒歩15分

③関東エリア 埼玉県

- 城西大学大学院**
経営学研究科 ビジネス・イノベーション専攻
● 埼玉県坂戸市けやき台1-1 ● 東武越生線川角駅徒歩10分

東京都

- 筑波大学大学院**
人文社会ビジネス科学学術院ビジネス科学研究群
経営学学位プログラム 国際経営プロフェッショナル専攻
● 東京都文京区大塚3丁目29-1 ● 茗荷谷駅徒歩3分

- 東京科学大学大学院**
環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程
● 東京都港区芝浦3-3-6 ● 田町駅徒歩2分

- 東京都立大学大学院**
経営学研究科 経営学専攻 経営学プログラム
● 東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビルディング18階
● 東京駅徒歩5分 大手町駅地下直結

- 一橋大学大学院 千代田キャンパス**
経営管理研究科 経営管理専攻 経営管理プログラム
金融戦略・経営財務プログラム
国際企業戦略専攻
● 東京都千代田区一ツ橋2-1-2
● 神保町駅徒歩3分 竹橋駅徒歩4分

- 一橋大学大学院 国立キャンパス**
経営管理研究科 経営管理専攻 経営分析プログラム
● 東京都国立市中2-1 ● 国立駅徒歩10分

- 青山学院大学大学院** 国際マネジメント研究科
● 東京都渋谷区渋谷4-4-25 ● 渋谷駅徒歩10分

- 亜細亜大学大学院** アジア・国際経営戦略研究科
● 東京都武蔵野市境5-8 ● 武蔵境駅徒歩12分

- 嘉悦大学大学院** ビジネス創造研究科
● 東京都小平市花小金井南町2-8-4 ● 花小金井駅徒歩10分

- グロービス経営大学院**
東京校 経営研究科 経営専攻
● 東京都千代田区二番町5-1 住友不動産麹町ビル
● 麹町駅徒歩1分

- KIT虎ノ門大学院（金沢工業大学大学院）** イノベーションマネジメント研究科
● 東京都港区愛宕1-3-4 愛宕東洋ビル12階
● 虎ノ門駅徒歩8分

- 産業能率大学大学院** 総合マネジメント研究科
● 東京都目黒区青葉台1-4-4 ● 代官山駅下車徒歩8分

- 城西国際大学大学院**
ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻
● 東京都千代田区紀尾井町3-26
● 麹町駅徒歩3分/永田町駅徒歩5分

- 高千穂大学大学院**
経営学研究科 経営学専攻
● 東京都杉並区大宮2丁目19-1 ● 西永福駅徒歩7分

- 多摩大学大学院**
経営情報学研究科 経営情報学専攻
● 東京都港区港南2-14-14 品川インターシティフロント5階
● 品川駅徒歩3分

- 中央大学大学院**
戦略経営研究科（ビジネス科学専攻：DBAプログラム）
● 東京都千代田区神田駿河台3-11-5 ● 御茶ノ水駅徒歩約3分

- 東洋大学大学院** 経営学研究科
● 東京都文京区白山5-28-20 ● 白山駅徒歩5分

- 名古屋商科大学大学院**
東京キャンパス マネジメント研究科 マネジメント専攻
● 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング7F
● 東京駅徒歩1分

- 日本工業大学大学院**
技術経営研究科 技術経営専攻
● 東京都千代田区神田神保町2-5 ● 神保町駅徒歩2分

- ハリウッド大学院大学**
ビューティビジネス研究科 ビューティビジネス専攻
● 東京都港区六本木6-4-1 六本木ヒルズハリウッドビューティプラザ
● 六本木駅出口直結

- 文京学院大学大学院** 経営学研究科
● 東京都文京区向丘1-19-1 ● 東大前駅徒歩1分

- 法政大学大学院** 経営学研究科
法政大学経営大学院 イノベーション・マネジメント研究科
● 東京都千代田区九段北3-3-9
● 市ヶ谷駅徒歩10分 飯田橋駅徒歩10分

- 明治大学専門職大学院**
グローバル・ビジネス研究科 グローバル・ビジネス専攻
● 東京都千代田区神田駿河台1-1 ● 御茶ノ水駅徒歩3分

- 立教大学大学院** ビジネスデザイン研究科
● 東京都豊島区西池袋3-34-1 ● 池袋駅徒歩7分

- 早稲田大学大学院** 経営管理研究科
● 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス11号館3階
● 早稲田駅徒歩5分

神奈川県

- 横浜国立大学大学院**
国際社会科学府 経営学専攻社会人専修コース
● 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-4
横浜国立大学経営学部1号館1階事務室内
● 三ツ沢上町駅徒歩16分

- 慶應義塾大学大学院** 経営管理研究科
● 横浜市港北区日吉4-1-1 ● 日吉駅徒歩1分

- グロービス経営大学院**
横浜キャンパス 経営研究科 経営専攻
● 神奈川県横浜市西区南幸1-1-1 JR横浜タワー 14F
● 横浜駅徒歩5分

新潟県

- 国際大学大学院（IUJ）** 国際経営学研究科
● 新潟県南魚沼市国際町777 ● 浦佐駅バス10分

- 事業創造大学院大学** 事業創造研究科
● 新潟県新潟市中央区米山3-1-46 ● 新潟駅徒歩7分

④中部エリア

- グロービス経営大学院**
名古屋校 経営研究科 経営専攻
● 愛知県名古屋市中村区名駅1-1-3 JRゲートタワー 27F ● 名古屋駅徒歩1分

- 中部大学大学院**
経営情報学研究科 経営学専攻
● 愛知県春日井市松本町1200 ● 神領駅バス10分

- 東海学園大学大学院** 経営学研究科
● 愛知県みよし市福谷町西ノ洞21-233 ● 三好ヶ丘駅徒歩10分

- 名古屋商科大学大学院**
名古屋キャンパス マネジメント研究科 マネジメント専攻
● 愛知県名古屋市中区錦1丁目3-1 ● 丸の内駅徒歩3分

⑤近畿エリア 京都府

- 京都大学大学院**
経営管理教育部 経営管理専攻
● 京都府京都市左京区吉田本町 ● 出町柳駅徒歩15分

- 同志社大学大学院** ビジネス研究科
● 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入 ● 今出川駅徒歩1分

大阪府

- 大阪大学大学院**
経済学研究科 経営系専攻
● 大阪府豊中市待兼山町1-7 ● 柴原阪大前駅徒歩15分

- 関西学院大学大学院**
経営戦略研究科 経営戦略専攻
● 大阪府大阪市北区茶屋町19-19 アブロースタワー 14階 ● 中津駅徒歩4分

- グロービス経営大学院**
大阪校 経営研究科 経営専攻
● 大阪府大阪市淀川区宮原1丁目1-1 新大阪阪急ビル4F ● 新大阪駅徒歩3分

- 名古屋商科大学大学院**
大阪キャンパス マネジメント研究科 マネジメント専攻
● 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪ナレッジキャピタル7F
● 大阪駅徒歩3分

- 立命館大学大学院**
大阪いばらきキャンパス 経営管理研究科
● 大阪府茨木市岩倉町2-150 ● 宇野辺駅徒歩7分
大阪梅田キャンパス 経営管理研究科
● 大阪府大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル5階・14階
● 東梅田駅徒歩1分

兵庫県

- 神戸大学大学院**
経営学研究科 現代経営学専攻
● 神戸市灘区六甲台町2-1 ● 六甲駅徒歩20分

- 兵庫県立大学大学院**
社会科学研究科 経営専門職専攻
● 兵庫県神戸市西区学園西町8丁目2-1 ● 学園都市駅徒歩10分

- 関西学院大学大学院** 経営戦略研究科
● 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155 ● 西宮駅バス12分

⑥中国エリア

- 県立広島大学大学院**
経営管理研究科 ビジネス・リーダーシップ専攻
● 広島県広島市南区宇品東1丁目1番71号
● 広島駅バス県立広島大学前（広島キャンパス）徒歩1分

⑦四国エリア

- 香川大学大学院** 地域マネジメント研究科
● 香川県高松市幸町2-1 ● 昭和町駅徒歩5分

⑧九州エリア 福岡県

- 北九州市立大学大学院**
北方キャンパス マネジメント研究科
● 北九州市小倉南区北方四丁目2番1
● 競馬場前（北九州市立大学前）徒歩3分
小倉サテライトキャンパス マネジメント研究科
● 北九州市小倉北区浅野1-1-1 アミュプラザ小倉7F ● 小倉駅徒歩1分

- 九州大学大学院**
伊都キャンパス 経済学府 産業マネジメント専攻
● 福岡市西区元岡744 ● 九大学研都市駅バス15分

- グロービス経営大学院**
福岡校 経営研究科 経営専攻
● 福岡市博多区博多駅中央街8-1 JRJP博多ビル4F ● 博多駅徒歩5分

長崎県

- 長崎大学大学院**
経済学研究科 経済経営政策専攻 経営学修士コース
● 長崎県長崎市片淵4-2-1 ● 諏訪神社・新大工町徒歩15分

大分県

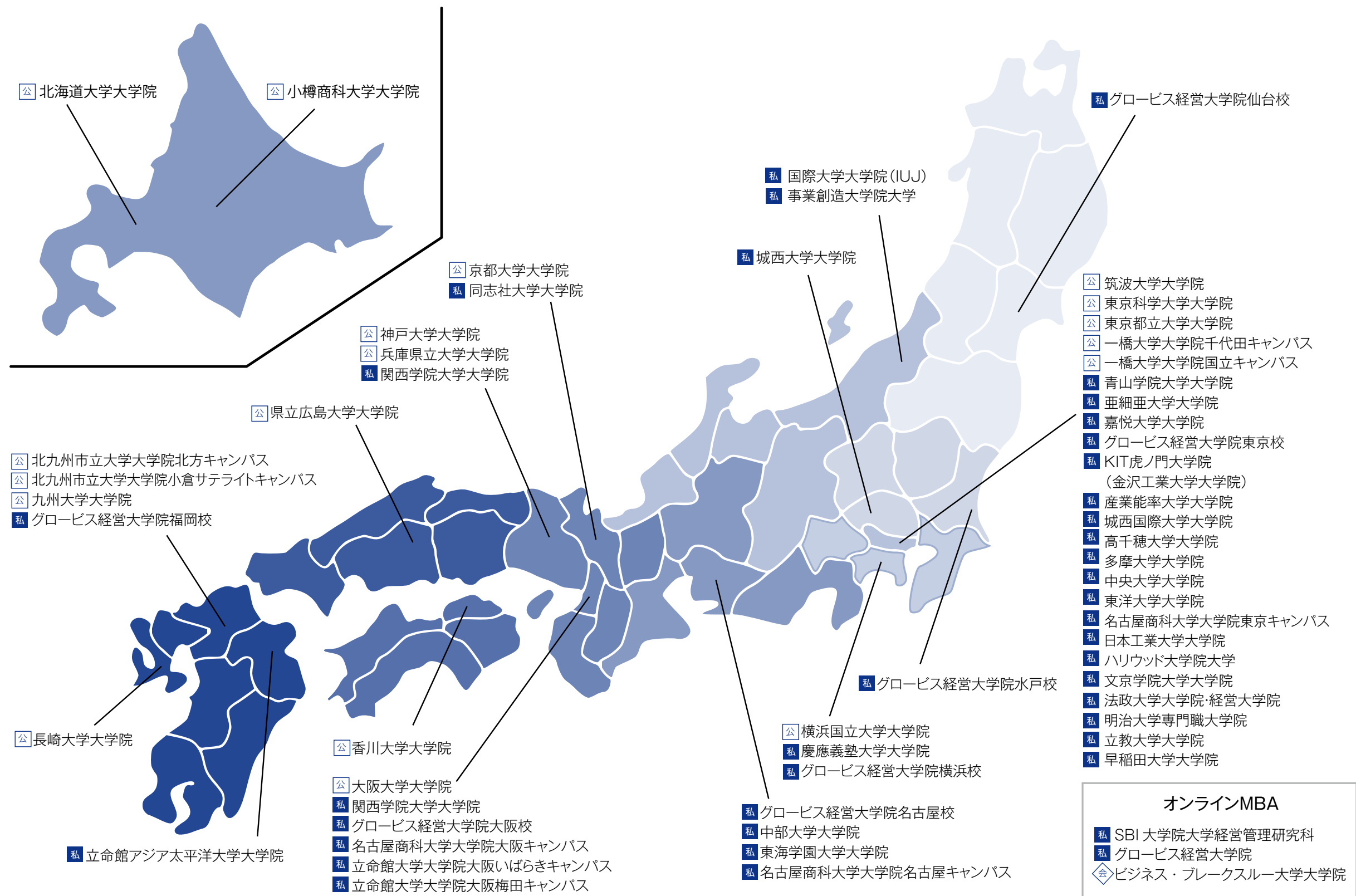
- 立命館アジア太平洋大学大学院** 経営管理研究科
● 大分県別府市十文字原1-1 ● 亀川駅バス15分

⑨全国オンライン

- SBI大学院大学**
経営管理研究科 アントレプレナー専攻

- グロービス経営大学院**
経営研究科 経営専攻 オンラインMBA

- ビジネス・ブレイクスルー大学大学院**
経営学研究科 経営管理専攻



国内MBAにはどんな種類があるの？

前項のエリア別国内MBA一覧をご覧ください、どこに国内MBA大学院があるのかは理解していただいたと思います。ここでは、国内MBAの種類について説明します。国内MBAには仕事を辞める、もしくは休職して進学する全日制のフルタイムMBAと、仕事を続けなが

フルタイムMBAの特徴を見てみよう

フルタイムMBAとは、会社を辞める、休職する等によって、平日の朝から夕方まで通学が可能な方を対象としたMBAです。一般的な大学院と同じ時間での開講になります。MBAというと、社会人経験者が学ぶ場という認識がありますが、フルタイムMBAは、社会人経験のない大学生の方が、そのまま進学するというケースも多く見られます。

ら平日夜間と土日で学ぶパートタイムMBAの2種類があります。さらに、パートタイムMBAには、平日夜間と土曜日の通学で修了できるMBAと、週末の土日だけの通学で修了できるMBAの2種類があります。これら国内MBAの種類について説明していきます。

フルタイムMBAの代表的な大学院は、

- 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科
- 関西学院大学大学院経営戦略研究科
- 京都大学経営管理大学院
- 慶應義塾大学大学院経営管理研究科
- 同志社大学大学院ビジネス研究科
- 一橋大学大学院経営管理研究科（経営分析プログラム）
- 立命館大学大学院経営管理研究科
- 早稲田大学大学院経営管理研究科

などがあります。

慶應義塾大学の授業時間

フルタイムMBAの授業時間ですが、慶應義塾大学大学院経営管理研究科を例に説明します。月曜日から金曜日まで毎日授業がおこなわれ、授業時間は、右記の表のようになっています。

通学する日数ですが、1年次は、平日はほぼ毎日通学します。1年次に修士論文以外の卒業に必要な単位をほぼ取得してしまう方が多く、2年次は週に1回開講しているゼミに通うのみとなる方が多いです。ですから、通学の負担は1年次だけだとお考えください。

パートタイムMBAの特徴を見てみよう

パートタイムMBAとは、社会人が勤務を続けながら学ぶことができるように、授業が平日の夜と週末におこなわれているMBAコースのことです。パートタイムMBAは社会人が対象のため、受験資格として実務経験3年（2年の場合もある）以上という条件を設定している大学院が多くなっています（実務経験がなくても受験できるパートタイムMBAももちろんあります）。

パートタイムMBAには、平日夜間と土曜日の通学で修了できるMBAと、週末の土日だけの通学で修了できるMBAの2種類があります。これらパートタイム国内

MBAの種類について説明していきます。

まず、平日夜間と土曜日に授業がおこなわれている「平日夜間＋土曜日」型のパートタイムMBAについて説明します。

このタイプのパートタイムMBAの代表的な大学院は、

- 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科
- 関西学院大学大学院経営戦略研究科
- 九州大学大学院経済学府
- 筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院
- 東京都立大学大学院経営学研究科
- 同志社大学大学院ビジネス研究科
- 一橋大学大学院経営管理研究科（経営管理プログラム、金融戦略・経営財務プログラム）
- 兵庫県立大学大学院経営専門職専攻
- 法政大学大学院経営学研究科
- 法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科
- 明治大学専門職大学院
- 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科
- 早稲田大学大学院経営管理研究科

などです。

早稲田大学の授業時間

授業時間ですが、早稲田大学大学院経営管理研究科を例に紹介すると、右記の表の通りとなっています。学校によって、多少の前後はありますが、授業時間の大きなイメージは同様ですので、パートタイムMBAに進学される方は参考になさってください。

	月～金	土
1限	—	8：50～10：30
2限	—	10：40～12：20
3限	—	13：10～14：50
4限	—	15：05～16：45
5限	—	17：00～18：40
6限	—	18：55～20：35
7限	—	—
夜間6限	18：30～20：10	—
夜間7限	20：20～22：00	—

慶應義塾大学の授業時間

次に、土日のみの授業で修了できる「土日」型のパートタイムMBAについて説明します。このタイプのパートタイムMBAの代表的な大学院は、

- 慶應義塾大学大学院経営管理研究科（EMBA）
- 神戸大学大学院経営学研究科
- 中央大学大学院戦略経営研究科
- 名古屋商科大学大学院マネジメント研究科

などです。

慶應義塾大学のEMBAは、主に土曜日のみの通学で修了できます（たまに金曜日の夜の授業もあります）。授業時間は右記の表の通りです。

	土
1限	9：00～10：30
2限	10：45～12：15
3限	13：00～14：30
4限	14：45～16：15
5限	16：30～18：00
6限	18：10～19：40
7限	19：50～21：20

神戸大学の授業時間

神戸大学は、土曜の週末集中講義を採用しております。最短1年半で修了できます。授業時間は右記の通りです。

	土
1限	8：50～10：20
2限	10：40～12：10
3限	13：20～14：50
4限	15：10～16：40
5限	17：00～18：30
6限	18：50～20：20

中央大学の授業時間

中央大学は、土日の講義だけで修了できる時間割となっています。授業時間は以下の通りです。平日の夜間も月曜日以外は授業がおこなわれていますが、土日のみの通学で修了できます。

	火～金		土		日
—	—	1限	9：00～10：40	1限	10：00～11：40
—	—	2限	10：45～12：25	2限	11：45～13：25
—	—	3限	13：05～14：45	3限	14：05～15：45
—	—	4限	14：50～16：30	4限	15：50～17：30
—	—	5限	16：40～18：20	—	—
6限	18：30～20：10	6限	18：25～20：05	—	—
7限	20：20～22：00	—	—	—	—

パートタイムMBAはどのくらい通う必要があるの？

次に、パートタイムMBAは週に何日くらい通う必要があるのか？通う頻度は1年次と2年次では違うのか？について説明します。この点に関しては、「平日夜間＋土曜日」型と「土日」型に分けて説明します。

「平日夜間＋土曜日」型のパートタイムMBAを修了するための平均的な通学日数は、1年次は平日週3日、土曜日半日～1日となります。国内MBAの場合、多くの学生が1年次に修士論文以外の卒業に必要な単位を取ってしまいます。そのため、2年次は修士論文作成のゼミだけの通学、すなわち週1日（1コマ）だけの通学になります。自分で先行研究の調査のために学校の図書館に行く場合はありますが、授業という点では、週1日だけになります。ですから、パートタイムMBAといっても、通学が大変なのは、1年生の時だけです。1年生の時だ

け、平日夜の19時頃に学校に行けるような体制を作っておけばいいわけです。

「土日」型のパートタイムMBAについては、神戸大学や慶應義塾大学などの土曜日だけの学校は、基本的に毎週土曜日に午前午後の授業を受けます。土日に授業がおこなわれている中央大学や名古屋商科大学では、基本的に土日ともに通学することになります。

土日のみの授業で修了できる大学院は、1年次と2年次における通学日数はそれほど変わりません。1年次は朝から夕方まで授業を受け、2年次は、午前中だけ午後だけといった形で履修授業は少なくなるものの、通学日数は、1年次も2年次も変わりません。ですから、神戸大学や慶應義塾大学の場合は、1年次も2年次も土曜日は毎週通学することになるのです。

パートタイムMBAの平均通学日数

年次	平日夜間＋土曜日型	土日型
1年次の平均通学日数	平日：週3日＋土曜日：半日～1日	土曜日だけの学校：毎週土曜日の午前午後 土日双方の学校：毎週の土日
2年次の平均通学日数	週1日	1年次と変わらず



フルタイムMBAの長所と短所

フルタイムMBAの長所は、十分な勉強時間が取れるので、経営学全般に関してまんべんなく知識がキッチリ得られる点です。筆者はフルタイムのMBAを修了しており、入学前はほとんど経営学の知識はありませんでしたが、修了時にはすべての科目に関して、経営者としてやっていくだけの知識とスキルが得られました。そのため修了後にすぐに会社を設立しました。MBAでの学びは会社経営に大きく役立ちますし、今後は経営者にとって必須になってくると思います。

一方、フルタイムの短所は、会社を辞めたり休職したりする必要があるので、再就職のリスクがある点です。日本の場合、まだまだMBAを取得したからと言って評価されることは少ないです。ですから、一度会社を辞めて、MBAに進学することは、2年間の空白期間とみなされてしまう場合もあり、リスクがあるのです。

以上、フルタイムMBAの長所短所を説明しましたが、こんな方にはフルタイムがお勧め、というタイプ別に説明していきます。

キャリアチェンジ目的で修了時の年齢が30歳未満の方

はフルタイムをお勧めします。キャリアチェンジの場合、年齢が重要です。30歳未満と若い年齢で修了できるならば、キャリアチェンジは可能ですし、MBAも評価されます。

また、交換留学を希望する方もフルタイムをお勧めします。早稲田や慶應のMBAでは、交換留学の制度があり欧米の著名なMBAに留学が可能です。その場合、半年以上は海外生活になりますので、当然、全日制でなければ留学はできません。

さらに、起業を目指す方もフルタイムの方がいいと思います。起業するということは、再就職における年齢的なリスクはありません。起業家に年齢は関係ないからです。その場合、しっかり勉強できると同時に、人脈形成の面でも全日制の方が適しています。全日制は朝から夕方まで毎日、共に学びます。この濃密な学びによって、濃密な人脈形成が可能になるのです。

最後に、多様性の中で学びたいという方もフルタイムがお勧めです。フルタイムには、世界各国からの留学生がいます。この留学生と共に学び、生活することで、グローバルな多様性を経験できます。

パートタイムMBAの長所と短所

次に、パートタイムMBAについて説明します。長所は、仕事を続けながら学ぶことができますので、会社を辞めたり休職したりするリスクがない点です。また、仕事をしながら学ぶことになりますので、学んだことをすぐに実践で試してみることが可能です。MBAで学ぶことは経営学全般です。例えば、消費者行動の分析手法をマーケティングの授業で学んだ場合、営業職の方であれば、すぐにその分析手法を用いて仕事に応用できます。また、財務会計の授業で会計分析の手法を学んだ場合、自社の財務分析をすることができます。自社の安定性はどうなのか？収益性はどうなのか？成長性はどうなのか？など財務的な視点からの分析ができます。

一方、パートタイムの短所は、フルタイムのように1日中勉強できるわけではありませんので、MBAで学ぶ内容の深さと広さには限界があるという点です。MBAでは経営学全般を学びます。具体的には、経営戦略、マーケティング、組織論、組織行動学、アカウンティング、ファイナンス、オペレーションマネジメント、生産管理、情報マネジメント、経済学、統計学など、企業経営をしていく上で必要となるすべての知識を学びます。パートタイムの場合は、学ぶ時間が全日制に比べると少なくなるため、すべての科目をキッチリ勉強できている方は、それほど多くないように見えます。ファイナンスの勉強が

まだ足りなかったとか、情報マネジメントに関する科目は履修できなかった、といった声を聞きます。

以上、パートタイムMBAの長所短所を説明しましたが、こんな方にはパートタイムがお勧め、というタイプ別に説明していきます。

退職というリスクをとりたくない方は当然パートタイムへの進学になります。日本では、先にも申し上げましたが、MBAを取得しても、それが評価されることが少ないです。退職にはリスクが伴うのです。そのため、日本ではパートタイムMBAが適している方が多いと思います。

また、サービス業に勤務していて、平日の夜間しか通学できない方は、平日だけの通学で修了可能なパートタイムに進学することになります。よくサービス業などに勤めている土日が休みではない方から質問されるのが、「平日の夜だけの通学で修了できますか」という点です。必修科目やゼミが土曜日にしか開講していない大学院もあります。その場合は、平日のみでは修了は難しいです。平日のみで修了できる大学院としてあげられるのは、一橋大学大学院経営管理研究科です。一橋大学は、ワークショップ（ゼミ）が平日に開講されていますし、土曜日は集中講義のみとなっていますので、平日のみで修了可能です。

フルタイム・パートタイムのメリットとデメリット

	メリット	デメリット
フルタイムMBA	学習に十分な勉強時間が取れる	退職・休職する必要がある
パートタイムMBA	仕事を続けながら学べ、実践も可能	学べる範囲や深度に限界がある

こんな方にはフルタイム・パートタイムがお勧め

	こんな方にお勧め	理由
フルタイムMBA	キャリアチェンジ目的で修了時に30歳未満の方	若さ故キャリアチェンジが可能、MBAも評価されるため
	交換留学を希望する方	半年間の海外生活になるため、フルタイムでなければ不可能
	起業を目指す方	起業ならば再就職におけるリスクがなく、濃密な人脈形成が可能なため
	多様性の中で学びたい方	フルタイムには世界各国からの留学生がいるため
パートタイムMBA	退職というリスクをとりたくない方	日本では退職にリスクが伴うため

志望校をどうやって選ぶ？

国内MBAにはどんな大学院があるのか、その大学院はフルタイムなのかパートタイムなのか、そしてパートタイムには2つの種類があるということを説明してきました。自分の興味がある大学院はどこかといういくつかの候補は見つかったかもしれません。そこで、最終的に志望校を決めるための細かな情報をお届けします。

また、MBAは社会人経験者が学ぶ場である、というのが一般的な認識です。実際、その通りなのですが、社会人経験のない大学生でも受験可能な国内MBAがあります。大学生でも受験可能なMBAを最後に紹介いたします。

ゼネラリスト型MBAとアカデミック型MBAを知ろう

欧米でMBAというと、企業を経営するために必要な知識を幅広く学ぶことを目的としています。よって、一般的なMBAのカリキュラムは、人的資源管理、組織論、財務会計、ファイナンス、情報・マーケティング、経営戦略、統計学、経済学といった科目を中心に構成されており、経営に必要な知識と技術を体系的に学ぶことができます。また、これらの科目を単に座学として学ぶのではなく、現場で通用する実践力を身に付けることを主眼としています。そのため、授業はケースディスカッションが中心になっています。

上記が欧米のMBAの一般的な形でして、経営学全般を学ぶということで本書ではゼネラリスト型MBAと呼ぶことにします。このゼネラリスト型MBAは、将来企

業の経営者になるとか、外部から企業経営を支援するコンサルタントになるといった目的を持った方が対象になります。

では、日本のMBAはどのようなかと言いますと、国内MBAはゼネラリスト型MBAも当然ありますが、ゼネラリスト型MBAとは学ぶ内容が異なっているアカデミックなMBAもあります。こちらは幅広い経営学を学ぶというよりも、経営学の一つの領域にフォーカスした研究をおこなうMBAです。アカデミックなMBAは、将来研究者（大学教授）になりたいとか、リサーチャーなどのデータ解析のエキスパートになりたい、といった目的を持った方が対象になります。本書ではこちらをアカデミック型MBAと呼ぶことにします。

ゼネラリスト型MBA・アカデミック型MBAの違い

	ゼネラリスト型MBA	アカデミック型MBA
内容	経営学全般を学ぶ	経営学の1つの領域の研究を行う
将来像	経営者、コンサルタント	研究者（大学教授）、データ解析のエキスパート
代表校	青山学院大学、慶應義塾大学、早稲田大学	筑波大学ビジネス科学研究群経営学学位プログラム、一橋大学経営管理研究科金融戦略・経営財務プログラム、横浜国立大学大学院国際社会科学府

ゼネラリスト型MBAは先に説明した通り、経営学を幅広く学びます。ゼネラリスト型の代表は、青山学院大学、慶應義塾大学、早稲田大学です。学び方はケーススタディと講義です。ケーススタディと講義のバランスは大学によって異なっています。慶應義塾大学は講義がほとんどなく、授業の大半がケーススタディによっておこなわれています。それに対して、青山学院大学や早稲田大学は、ケーススタディだけでは基礎知識が得られないと考えているので、講義が充実しています。また国内のゼネラリスト型MBAの授業の中心はケースディスカッションですが、修了要件として修士論文が課されている大学院がほとんどです。慶應義塾大学、早稲田大学は修

士論文が必須になっていますので、研究もおこないます（青山学院大学は任意）。ただ、この修士論文ですが、ゼネラリスト型MBAでは、アカデミックな論文でなくてもかまいません（アカデミックな論文でもOKです）。アカデミックな論文とはどういうものなのかと言いますと、既存の先行研究にはない新しい発見を提示することが求められる論文のことです。そのため先行研究を読み込んだ上で、自分なりの新規性のある仮説を設定して、それをデータを収集して分析することで検証をおこなうということが学びの中心になります。

対して、ゼネラリスト型MBAの修士論文では、例えば家業を継ぐ方が、家業が属する業界の将来予測を論文

としてまとめるというような形も認められています。この点がアカデミック型MBAの修士論文との違いです。

アカデミック型MBAの代表は、筑波大学のビジネス科学研究群経営学学位プログラムと一橋大学経営管理研究

「中間型」MBAという存在

ゼネラリスト型とアカデミック型の中間に位置するMBAを中間型と筆者が勝手に名付けました。中間型とは、ケースディスカッションもおこないながら、アカデミックな研究にもある程度力を入れている国内MBAのことです。

中間型に位置しているのが、神戸大学、東京都立大学、一橋大学（経営分析プログラム、経営管理プログラム）などです（あくまでも筆者の主観での分類です）。これらは経営学を全体的に学ぶことにも力を入れていますので、講義やケーススタディが充実しています。一方でアカデミックな研究にも力を入れています。例えば、神戸大学では、プロジェクト方式を採用し、フィールド（経営の現場）で収集されたデータに基づいて現実の重要な

国内MBAの難易度（受験倍率）を知ろう

ここまで読んでいただいた皆さんは、国内MBAの大学院ごとの特徴（ゼネラリスト型かアカデミック型か）を理解できたと思います。ここでは、国内MBAの難易度について説明します。難易度といっても、大学受験のような偏差値という概念は、国内MBA受験にはありません。そこで国内MBAの難易度を測る目安として、ここでは受験倍率を取り上げて、倍率が高い大学院を難易度が高い国内MBAと定義します。その上で、難易度が高い国内MBAはどこの大学院かについて説明します。

国内MBAの難易度を測る目安となる、受験倍率を大学院ごとに紹介します。国内MBAを開講する大学院も近年は数が増えて50校を超えています。この50校がすべて難易度が高いかということ、そんなことはありません。国内MBAの場合は、難易度が高い大学院はごく一部です。受験倍率が2倍を超える大学院というのは、受験者の半分以上が不合格になるということになります。そこ

京都大学経営管理大学院

京都大学経営管理大学院は実務経験がなくても受験できる一般選抜と、社会人が対象の特別選抜に分けられます。2022年度の一般選抜は197名出願して26名合格で倍率7.58倍となっています。特別選抜は、77名受験して29名合格で倍率は2.66倍となっています。2023年度の一般選抜は214名出願して25名合格で倍率は8.56倍となっています。特別選抜は、55名受験して33名合格で倍率1.67倍となっています。2024年度の一般選抜は168名出願して

科の金融戦略・経営財務プログラム、横浜国立大学大学院国際社会科学府です。アカデミック型は研究をすることが目的ですから、ゼネラリスト型MBAのようなケースディスカッションが学びの中心になることはありません。

問題を見つけ出すことに力点を置いた指導をしています。プロジェクト方式とは、産業界からの要望の高い課題に対して、5～6名の社会人学生からなるプロジェクトチームを編成し、教授陣・学生間でお互いに知恵を出しながら共同研究により解決策を探る教育システムです。一橋大学では、1年次からワークショップ（ゼミ）に属して、論文作成の準備をおこなう形態となっています。

ここまで説明してきた通り、国内MBAは大学によって学ぶ内容が違っているのです。ですから、志望校を選ぶ際は、まず自分はどんな目的でMBAに行くのかを考えてください。目的が決まれば自然に志望校は決まってきます。ここでの筆者の指摘を参考にご自身の志望校をお決めいただければと思います。

で、本書では、受験倍率が2倍を超える大学院を難易度が高いと定義して、受験倍率を大学院別に紹介します。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響で近年受験者が大幅に増加し、受験倍率が高くなっています。筆者の経験上、将来における不確実性が高くなると、危機意識を持つ方が多くなり、その結果として、何か学んで身に付けようとする方が多くなると考えます。2008年のリーマンショックの後も、国内MBAの受験者が増えました。危機意識を持った方が多くいたわけです。今回もコロナ禍での将来不安が国内MBA受験者の増加を招いているのです。そのため、国内MBAを受験する方は、今まで以上に真剣に熱心に受験準備に取り組む必要があります。

特に難易度が高い（倍率が高い）国内MBAは次の8校です。順に紹介していきます。ここまでまとめた情報を入手できるのは本書だけだと思います。

32名合格で倍率は5.25倍となっています。特別選抜は、61名受験して30名合格で倍率2.03倍となっています。

京都大学経営管理大学院の受験倍率

	2022年度	2023年度	2024年度
一般選抜	7.58倍	8.56倍	5.25倍
特別選抜	2.66倍	1.67倍	2.03倍

慶應義塾大学大学院経営管理研究科

慶應義塾大学大学院経営管理研究科にはフルタイムのMBAと実務経験15年以上の方を対象としたEMBAがあります。2022年度のフルタイムは388名受験して80名合格で倍率4.85倍となっています。EMBAは、100名受験して59名合格で倍率は1.69倍となっています。2023年度のフルタイムは354名受験して88名合格で倍率は4.02倍と

慶應義塾大学大学院経営管理研究科の受験倍率

	2022年度	2023年度	2024年度
MBA	4.85倍	4.02倍	3.72倍
EMBA	1.69倍	1.66倍	1.63倍

神戸大学大学院経営学研究科

神戸大学大学院経営学研究科の、2022年度の入試は、174名受験して70名合格で倍率2.49倍となっています。2023年度の入試は、174名受験して72名合格で倍率2.42倍となっています。2024年度の入試は、172名受験して72

神戸大学大学院経営学研究科の受験倍率

2022年度	2023年度	2024年度
2.49倍	2.42倍	2.39倍

筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院

筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院には、ビジネス科学研究群、国際経営プロフェッショナル専攻の2つがあります。ビジネス科学研究群の倍率からご紹介します。2022年度の入試は、79名受験して35名合格で倍

筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院ビジネス科学研究群の受験倍率

2022年度	2023年度	2024年度
2.26倍	2.47倍	2.92倍

次は、筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院国際経営プロフェッショナル専攻です。2022年度の入試は、76名受験して35名合格で倍率2.17倍となっています。

筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院国際経営プロフェッショナル専攻の受験倍率

2022年度	2023年度	2024年度
2.17倍	2.03倍	1.59倍

一橋大学大学院経営管理研究科

一橋大学大学院経営管理研究科には、実務経験がなくても受験できるフルタイムの経営分析プログラム、社会人対象のパートタイムの経営管理プログラム、金融・財務を学ぶ金融戦略・経営財務プログラムがあります。まず、経営分析プログラムから説明します。2022年度

なっています。EMBAは、96名受験して58名合格で倍率は1.66倍となっています。2024年度のフルタイムは279名受験して75名合格で倍率は3.72倍となっています。EMBAは、85名受験して52名合格で倍率は1.63倍となっています。

名合格で倍率2.39倍となっています。2022年度から3年間の倍率は2倍を超えていますので、難易度が高いというで紹介しました。

率は2.26倍となっています。2023年度の入試は、89名受験して36名合格で倍率は2.47倍となっています。2024年度の入試は、105名受験して36名合格で倍率は2.92倍となっています。

2023年度の入試は、73名受験して36名合格で倍率2.03倍となっています。2024年度の入試は、59名受験して37名合格で倍率1.59倍となっています。

は、182名受験して54名合格で倍率3.37倍となっています。2023年度は、140名受験して53名合格で倍率2.64倍となっています。2024年度は、142名受験して52名合格で倍率2.73倍となっています。

一橋大学大学院経営管理研究科（経営分析プログラム）の受験倍率

2022年度	2023年度	2024年度
3.37倍	2.64倍	2.73倍

次は、経営管理プログラムです。2022年度は、304名受験して64名合格で倍率4.75倍となっています。2023年度は、358名受験して67名合格で倍率5.34倍となっていま

一橋大学大学院経営管理研究科（経営管理プログラム）の受験倍率

2022年度	2023年度	2024年度
4.75倍	5.34倍	5.58倍

最後が、金融戦略・経営財務プログラムです。同プログラムは秋入試と冬入試に分かれています。2020年度は、秋入試は106名受験して35名合格で倍率3.03倍となっています。冬入試は38名受験して9名合格で倍率4.22倍となっています。2021年度は、秋入試は76名受験して31名合格

一橋大学大学院経営管理研究科（金融戦略・経営財務プログラム）の受験倍率

	2020年度	2021年度	2022年度
秋入試	3.03倍	2.45倍	2.28倍
冬入試	4.22倍	3.09倍	3.85倍

早稲田大学大学院経営管理研究科

早稲田大学大学院経営管理研究科（WBS）には全日制、夜間主総合、夜間主プロフェッショナルの3つのコースがあります。2024年度入試は、全日制プログラムが、225名出願して57名合格で倍率3.95倍となっています。夜間主

早稲田大学大学院経営管理研究科の受験倍率

	2024年度
全日制プログラム (全日制グローバル・1年制総合)	3.95倍
夜間主総合	4.31倍
夜間主プロフェッショナル (マネジメント専修・ファイナンス専修)	2.53倍

東京都立大学大学院経営学研究科

東京都立大学大学院経営学研究科の経営学プログラムについては、筆者が国内MBA受験指導をしている中で、「不合格になったので、再挑戦したいが、再挑戦して合格できるか」といった受験相談を多く受けてきました。

東京都立大学大学院経営学研究科の受験倍率

	2024年度
経営学プログラム	3.12倍

す。2024年度は、363名受験して65名合格で倍率5.58倍となっています。

で倍率2.45倍となっています。冬入試は34名受験して11名合格で倍率3.09倍となっています。2022年度は、秋入試は73名受験して32名合格で倍率2.28倍となっています。冬入試は50名受験して13名合格で倍率3.85倍となっています。

総合は、522名出願して121名合格で倍率4.31倍となっています。夜間主プロフェッショナルは、185名出願して73名合格で倍率2.53倍となっています。

そのため、受験倍率はある程度の高さになっています。2024年度は131名受験して42名合格で倍率3.12倍となっています。

兵庫県立大学大学院経営専門職専攻

中小企業診断士の2次試験が免除になる国内MBAも倍率が高くなっています。その代表が兵庫県立大学大学院経営専門職専攻です。中小企業診断士の2次試験が免除になる同専攻の「地域イノベーションコース」は倍率が高くなっています。2022年度の入試は、122名受験し

兵庫県立大学大学院経営専門職専攻（地域イノベーションコース）の受験倍率

2022年度	2023年度	2024年度
3.70倍	3.38倍	2.72倍

実務経験がない大学生でも国内MBAを受験できる！

ここまでの説明で、MBAには全日制のフルタイムと平日夜間を中心としたパートタイムがあることはご理解いただけたと思います。フルタイムにしてもパートタイムにしても、MBAはビジネススクールですから、実務経験がある社会人が対象になることは当たり前です。しかし、一部の国内MBAでは、早期に経営学を学び、その上で社会に出ることが、優秀な経営者育成という点では有効ではないか、と考えています。近年、スポーツの世界や将棋、囲碁の世界でプロの低年齢化がどんどん進んでいます。将棋の藤井聡太さんや、卓球の張本智和さん、伊藤美誠さんなどが好例です。経営者の世界でも、早期に経営者としてのエリート教育であるMBAを受けさせることが重要なのではないかという主張があるので、そのために、実務経験がない大学生4年生にも受験資格を与えている国内MBAがあるのです。それが、以下の11校です。

- 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科（フルタイム）
- 関西学院大学大学院経営戦略研究科（フルタイム）
- 京都大学経営管理大学院（フルタイム）
- 九州大学大学院経済学府（パートタイム）
- 慶應義塾大学大学院経営管理研究科（フルタイム）
- 同志社大学大学院ビジネス研究科（フルタイム）
- 一橋大学大学院経営管理研究科経営分析プログラム（フルタイム）
- 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科（パートタイム）
- 立命館大学大学院経営管理研究科（フルタイム）
- 早稲田大学大学院経営管理研究科（フルタイム）

大学生の皆さんで、社会人経験がないまま国内MBAへの進学をお考えの方は、上記の11校を候補として、ご検討ください。

入試の詳細と受験対策

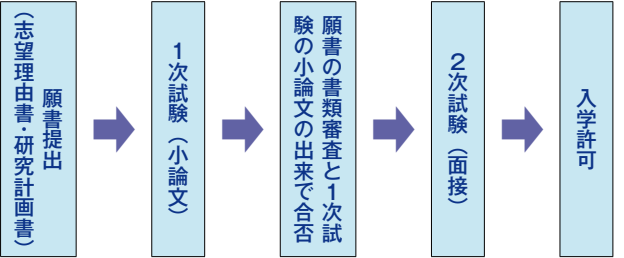
ここでは、国内MBA入試の流れについて説明します。また大学受験は一般的に2月ごろにおこなわれ、4月に入学するという形ですが、国内MBAではどうなっているのかを説明します。

国内MBA入試について詳しく知ろう

国内MBA入試はいつおこなわれるのか

まず、国内MBA入試の流れを以下で説明します。最初に願書を提出します。願書には志望理由書や研究計画書なども含まれておりまして、書類審査があります。願書を提出したら、1次試験として、小論文の試験を受けます（大学院によっては、英語が課せられている場合もあります）。この小論文の出来と、願書と同時に提出した志望理由書や研究計画書の合計点で1次の合格が決まります。1次に合格しますと、2次試験として面接がありまして、面接に合格すると、入学の許可が得られるという流れになります。

国内MBA入試の流れ



※1次試験に英語の筆記試験も課されている大学院もあります

次に入試と入学の時期について説明します。国内MBAは年2回以上入試がおこなわれる大学院と、年に1回しか入試がおこなわれない大学院があります。年1回しか入試がおこなわれていない大学院は、おおむね9～12月に出願し、後日筆記試験や面接がおこなわれます。年2回以上の入試がおこなわれている大学院は、9～12月に出願する入試にプラスして、翌年の1月に出願する形で2回目の入試がおこなわれるケースが多いです。どのケースで受験しても、入学は翌年の（1月出願の場合は、その年の）4月になります。

入試回数	出願時期
年1回の大学院	9月～12月に出願が多い
年2回以上の大学院	9月～12月と翌年1月に出願が多い

国内MBAの入試科目にはどんなものがあるのか

ここでは国内MBAの入試科目について説明します。国内MBA入試の試験科目は、英語、小論文、志望理由書・研究計画書などの出願書類、面接の4つです。どの国内

MBAにおいても、4つの科目すべてが課されているわけではなく、大学院によって入試科目は異なり、大きく分けて3つのパターンがあります。

	入試科目
パターン1	小論文、出願書類、面接
パターン2	出願書類、面接
パターン3	英語、小論文、出願書類、面接

※ 筑波大学（国際経営プロフェッショナル専攻）は、英語で出願書類の提出と面接が行われます

1つ目は、小論文、志望理由書・研究計画書などの出願書類、面接の3つが試験科目として課されている大学院です。2つ目は、志望理由書・研究計画書などの出願書類、面接の2つが試験科目として課されている大学院です。3つ目は、あまり数は多くないですが、英語、小論文、志望理由書・研究計画書などの出願書類、面接の4つが試験科目として課されている大学院です。

1つ目のパターンに該当する大学院は、

- ・関西学院大学
- ・慶應義塾大学
- ・東京都立大学
- ・早稲田大学
- ・筑波大学（ビジネス科学研究群）
- ・一橋大学（経営管理プログラム）
- ・横浜国立大学
- ・兵庫県立大学
- ・法政大学（イノベーション・マネジメント研究科）
- ・立命館大学

などです。

2つ目のパターンに該当する大学院は、

- ・青山学院大学
- ・中央大学
- ・筑波大学（国際経営プロフェッショナル専攻）
- ・一橋大学（金融戦略・経営財務プログラム）
- ・法政大学（経営学研究科）
- ・明治大学
- ・立教大学

などです。

3つ目のパターンに該当する大学院は、

- ・一橋大学（経営分析プログラム）
- ・神戸大学
- ・京都大学
- ・東京科学大学
- ・九州大学

などです。

英語の筆記試験が実施されているのは、一橋大学（経営分析プログラム）、神戸大学の2校だけで、その他は筆記試験ではなく、出願時にTOEIC®やTOEFL®のスコアの添付が必要となっています。

国内MBA入試の準備期間はどのくらい必要？

国内MBA入試は、6か月間の準備期間があれば、どの大学院にも合格する可能性があります。比較的時間に余裕があって、日々密度の濃い対策が出来る方であれば、3か月の準備期間でも十分に間に合います。具体的に言いますと、青山学院大学、京都大学、慶應義塾大学、神戸大学、筑波大学、東京都立大学、一橋大学、早稲田大学など比較的難易度が高いと言われている大学院でも、6か月あれば十分に受験対策は可能ですし、3か月の準備期間でも間に合います。極端な話、経営学の知識もあって、文章を日ごろから書いている人であれば、経営学の知識のインプットや小論文を書く練習も必要ありません

国内MBA入試の勉強法の大枠を解説

ここでは、国内MBA入試の勉強法について大枠の説明をします（勉強法の詳細は後述します）。国内MBA入試では、小論文、志望理由書・研究計画書、面接、どれをとっても経営学の基本的な知識が必要になります。そのため、経営学の基礎的な知識がある方とない方では勉強法が異なります。

まずは、経営学の知識がない方に向けた説明をします。経営学の知識がない方は、まずは経営学の知識をインプットする必要があります。そのためには、書籍を自分で購入して独学で勉強するという方法もありますが、初

心者の方にとっては、どこから手を付けていいのかわからない、という悩みが生じると思います。基礎的な知識に不安を感じた方は、予備校で経営学の基礎知識をインプットする講座を受講するといいと思います。効率的な知識のインプットができます。

経営学の知識のインプットが終わりましたら、小論文を書く練習をします。こちらも書籍を買って、過去問を入手して独学で勉強して解答するという方法もありますが、初心者の方にとっては、予備校利用が効率的だと思います。

小論文の練習とともに、準備が必要なのが、志望理由書・研究計画書といった出願書類です。志望理由書は、経営学の知識があれば、あとは実務経験をもとに問題意識を活字で表現するだけですから、独学でも可能です。

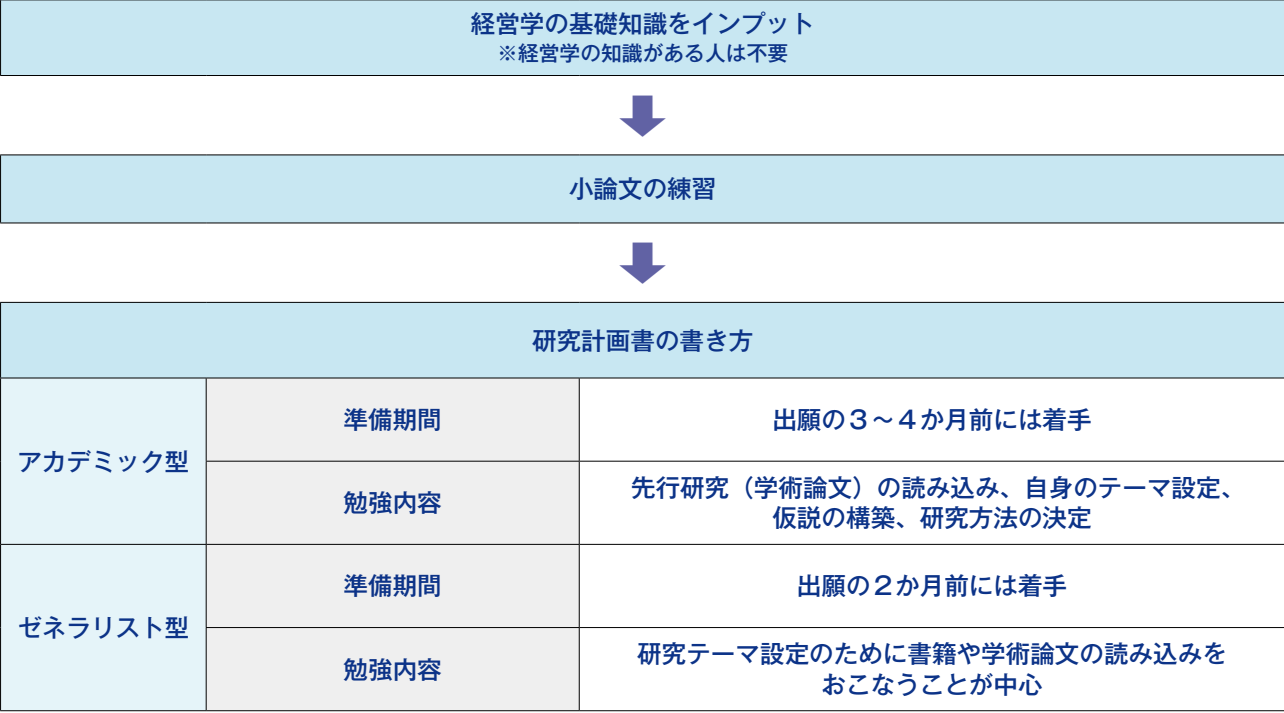
しかし、研究計画書は、研究の初心者には書きにくい場合もありますし、アカデミック型MBAか、ゼネラリスト型MBAかによって対策法や準備期間が異なります。そこで、アカデミック型MBA、ゼネラリスト型MBAに分けて説明します。アカデミック色の強い大学院を受験する場合（東京都立大学、筑波大学、横浜国立大学など）は、出願の3～4か月前には着手して準備をすると万全だと思います。勉強内容としては、先行研究（学術論文）の読み込み、自身のテーマ設定、仮説の構築、研究方法の決定などをおこないます。一方、ゼネラリスト型MBA

を受験する場合（慶應義塾大学、早稲田大学など）は、2か月前に着手すれば合格レベルの研究計画書が書けると思います。勉強内容としては、研究テーマ設定のために書籍や学術論文の読み込みをおこなうことが中心です。アカデミック型のような精緻な研究計画は不要です。

小論文にしろ、研究計画書にしろ、自分が書いたものを自分で評価するのは難しいです。そこで、第三者的な意見を求める意味でも、予備校の利用は価値があると思います。

最後に、面接ですが、こちらは経営学の知識があり、志望理由書・研究計画書がしっかり書けていれば、独学で問題ないと思います。ただ、面接で、どんなことを聞かれるのか知りたいという方は、予備校の講座を受けて、面接内容の情報を入手するのもいいかと思います。

国内MBA入試の勉強法



次に、経営学の知識がある方に向けた説明をします。経営学の知識がある方は、経営学の知識をインプットする必要はありません。ですから、いきなり小論文を書く練習をします。普段から文章を書く仕事をしている方や、プレゼンテーションをする機会が多い方は、書籍を買って、過去問を入手して独学で勉強すればいいと思います。

■国内MBA入試に英語の試験がある場合は、どのくらいの英語力で合格するのか

国内MBA試験で英語の筆記試験があるのは、先に説明した通り、一橋大学（経営分析プログラム）、神戸大学の2校だけです。九州大学、京都大学、東京科学大学はTOEIC®やTOEFL®のスコアの添付となっています。これら5校を受験する場合は、英語の準備が必須となり

そうでない方は、小論文を添削してもらえる講座がある予備校を利用して準備をすることをお勧めします。

志望理由書・研究計画書といった出願書類、面接は、先に説明した「経営学の知識がない方」向けの部分と同じですので、「経営学の知識がない方」向けの説明をご覧ください。

ます。その他の国内MBAは、英語の筆記試験はありませんし、TOEIC®・TOEFL®のスコアの添付も任意ですので、スコアを提出しなければ英語の準備は必要ないということになります。

国内MBA入試で求められる英語力

志望先	試験における英語
一橋大学（経営分析プログラム）	1次試験にて英語の筆記試験あり
九州大学	TOEIC®やTOEFL®のスコアの添付
京都大学	
東京科学大学	
その他の国内MBA	スコアの添付は任意

※入試で問われなくても入学後に英語力が求められる場合があります

まずは一橋大学（経営分析プログラム）、神戸大学の筆記試験においてどのくらいの英語力で合格できるか、という点を説明していきます。一橋大学（経営分析プログラム）は、目安としてTOEIC®700～800点程度と捉えて準備をするといいと思います。

神戸大学ですが、TOEIC®730点以上の方は英語の筆記試験は免除になりますので、目安としてTOEIC®730点あれば問題ないと言えます。ただ、TOEIC®400～500点くらいの英語力で、筆記試験でほとんど解答できなかった方が、合格している例もあります。なので、英語の筆記試験の出来は合否にはあまり影響がないと言えるかもしれません。

次がTOEIC®やTOEFL®のスコア添付が必須の九州大学、京都大学、東京科学大学です。筆者の指導経験からの見解ですが、京都大学はTOEIC®700～800点程度あれば英語は問題ないと言えるのではないかと推測しています。東京科学大学は、過去の合格者はTOEIC®500点くらいでした。

その他の国内MBAは、英語の筆記試験がなく、TOEIC®・TOEFL®のスコアの添付も任意ですので、英語力は関係ないというのが指導経験から言えることです。青山学院大学、慶應義塾大学、東京都立大学、筑波大学（ビジネス科学研究群）、一橋大学（経営管理プログラム）、早稲田大学などはTOEIC®のスコアは任意添付です。実際、TOEIC®が400～500点程度の場合の方はスコアが悪いので添付はしませんが、その方々も合格しているというのが実態です。なので、TOEIC®・TOEFL®のスコアの添付が任意の大学院の場合は、英語力は関係ないと言えると思います。

ただ、注意点として、英語力が入学後に必要になるという場合もあります。例えば青山学院大学は卒業時にTOEIC®730点以上の取得がなければ卒業はできませんので、同大学のMBAを目指す方は卒業までにTOEIC®730

点を取れるようにしておく必要があります。入学時はTOEIC®400点くらいで、卒業時にTOEIC®のスコアが730点に届かずに留年した方もいますので、青山学院大学を目指される方は注意してください。慶應義塾大学、東京都立大学、筑波大学（ビジネス科学研究群）、一橋大学（経営管理プログラム）、早稲田大学などでは、先に説明した通り、入試での英語力は特に問われません。基本的に教材もディスカッションも日本語ですので、英語力が必要となる場面はありません。ただ、修士論文を書く際にアカデミックな指導をする教授のゼミに属した場合に、欧米の学術論文を読むことが必要になる場合があります。筆者は早稲田大学の中ではアカデミックな修士論文指導をする東出浩教教授のゼミに所属していましたが、論文を書く際の先行研究の調査はすべて英語の原書にあたりました。在学中は500くらいの欧米の学術論文を読みました。このように国内MBAでもアカデミックな論文指導をする教授のゼミに入ると、英語の文献の読み込みは必須ですので、英語力は必要になります。なので、入学前に英語力を高めておくことは必要だと思います。その場合でもTOEIC®730点くらいあれば、筆者の経験上、問題ないと思います。

最後に、授業が英語でおこなわれる国内MBAを受講するにあたりどれくらいの英語力が必要かを説明します。授業が英語でおこなわれる国内MBAとして、筑波大学（国際経営プロフェッショナル専攻）、一橋大学（国際企業戦略専攻）の2つがあります。この2つを受験する場合は、ネイティブ並みの英語力が必要になりますので、TOEIC®の場合は900点くらい取っておくべきです。指導経験を踏まえて言うと、合格者はTOEIC®で850点前後のスコアは持っていました。この2校を受験する場合は、TOEIC®のスコアに関係なく、英語力はネイティブ並みに高めておくべきだと思います。



国内MBA受験対策に予備校を考えてみよう

国内MBA受験に予備校は必要なのか？

「国内MBAを受験するには予備校が必要ですか？」と聞かれることが多いです。答えは、「人による」ということです。経営学の知識がまったくない方は、知識のインプットをしないと、経営学の知識が必要な小論文は書けません。また、研究計画書のテーマ設定も経営学の知識がなければ当然のことながらできません。ですから、そのインプットを自分で書籍を購入して独学でやるのか、予備校で経営学のレクチャーを受けて学ぶのか、という判断です。MBA受験を考えるのは、法学部、医学部、薬学部、文学部、理工学部出身という経営学の完全な素人の方が多いです。経営学をまったく学んだことがない方

国内MBA予備校のカリキュラムや講座内容はどんなもの？

国内MBA予備校の一般的なカリキュラムは、「経営学の知識をインプットする講座」「インプットした知識をもとにした小論文の演習講座（添削講座）」「大学院の過去問を用いた実践的な小論文の演習講座（添削講座）」「研究計画書の書き方の講義&添削指導」「面接の対策講義」の5つから成り立っています。これはどこの予備校でもほぼ同じです。

この中で特に重要な講座は、国内MBAの可否のカギとなる「研究計画書の書き方の講義&添削指導」です。この講座は、研究計画書の書き方を講義し、その講義を聞いた後に、研究計画書を作成してもらい、その添削指導をする、という内容です。過去の指導経験から言うと、この講座が一番受験生のニーズがある人気講座となっています。

次に重要な講座は、「経営学の知識をインプットする

は、どの本を読めばいいのかすらわからないと思いますので、予備校を利用して予備校のカリキュラムに任せてしまうのが手っ取り早いと思います。経営学を日ごろから民間のビジネススクールの単科講座などを受講して学んでいる方は、すでに経営学の知識は持っていると思いますので、予備校は不要だと思います。

また経営学を学んだ経験がある方でも、国内MBAを受験する際の研究計画書の作成は独学では難しいことが多いと思います。アカデミックな研究経験者にしかわからない研究テーマの設定方法、研究の方法論など研究の作法は予備校で学ぶ方が独学よりも近道かもしれません。

講座」です。この講座は経営学の素人を対象に、国内MBA受験に必要な経営学の知識を講義するものです。こちらは研究計画書の講座に次ぐ人気講座になっています。

国内MBA予備校の一般的なカリキュラム

カリキュラム内容
経営学の知識をインプットする講座（※）
インプットした知識をもとにした小論文の演習講座（添削講座）
大学院の過去問を用いた実践的な小論文の演習講座（添削講座）
研究計画書の書き方の講義&添削指導（※）
面接の対策講義

※合格に重要な講座です

国内MBA予備校を利用するメリット

国内MBA予備校を利用するメリットは3つあります。1つ目は、専門家による第三者的な視点からのフィードバックがある点です。小論文や研究計画書は、自己評価ができません。マークシートの問題なら、正解か不正解かの判断は自分でできます。しかし、小論文や研究計画書は自己評価ができないのです。その評価を専門家である予備校がすることで、何が良くて何が悪いのかの指摘を受けることができるのです。この第三者的な視点でのフィードバックは予備校利用の最大のメリットです。2つ目は、効率的な受験準備ができることです。独学の場合は、さまざまな経営書を自分で買い込みそれを手当たり次第に覚えることをします。非常に時間がかかります。予備校では、受験に必要な知識をテキスト1冊にまとめてくれているので、そのテキストだけを覚えればいいのです。また難しい理論もわかりやすい講義があるので、苦も無く楽しく学ぶことができます。そういう意味で予備校は時間を買うという発想に近いと思います。特に、研究計画書作成において、よく質問されることが、「どのくらい先行研究を読めばいいのですか？」という

予備校を利用するメリット

メリット	詳細
専門家による第三者的な視点からのフィードバック	・自己評価が難しい小論文や研究計画書の添削をしてくれる
効率的な受験準備ができる	・受験に必要な知識をテキスト1冊にまとめてくれている ・難しい理論もわかりやすい講義で学べる ・予備校は時間を買うという発想に近い
事前に国内MBA内部の状況が把握できる	・予備校卒業生から学校の様子などの情報を入手できる

ことです。これに関しても、予備校では過去の指導経験から、学校別にどのくらいの先行研究の読み込みが必要か理解していますので、予備校の指示通りに先行研究の調査をおこなえば無駄な調査をすることなく済みます。同じような質問で、「研究の方法論はどのくらいまで詰めておけばいいのですか？」というものもありますが、この点も予備校の指示通りに準備すればいいのです。

3つ目は、事前に国内MBA内部の状況が把握できる点があげられます。予備校では、過去の卒業生がさまざまなMBAに進学しています。その方々からの情報が予備校に集まりますので、MBAの説明会やネットでは知ることができない学校の内部の情報を入手することができます。また、その予備校から国内MBAに進学した方の講演会等も実施されますので、そこからの情報の入手も可能です。MBAも入学してみたら、「こんなはずじゃなかった」みたいなこともありますので、事前に学校の内部の情報を入手できるのは大きなメリットだと思います。

国内MBAに入学するメリット

ここでは、国内MBAに進学するメリットを4つ紹介します。IT革命によって国境がなくなり、日本的な経営である終身雇用・年功序列などが崩れつつあります。またテレワークの普及によって、成果を出さずに、ただ出勤するだけのぶら下がり社員という生き方も通用しなくなっています。今の日本は、会社に依存する生き方から、個人として自律して生きていく時代に移行しつつあります。そんな今こそ、国内MBAに進学すべきだと考えています。以下で、国内MBA進学で得られるメリットを詳細に説明します。これをお読みいただき、皆さんも国内MBAへの進学を真剣に考えてみてください。魅力いっぱいの国内MBAです。

国内MBA取得の4つのメリット

個人のブランディングができる！

1つ目のメリットは、個人のブランディングができることです。日本においても終身雇用が崩れており、大企業でも副業が解禁となっています。これからの時代は、会社に依存する生き方はリスクが伴います。個人として何ができるのかを明確にして、自律して生きていく時代になっています。すなわち、個人のブランディングをして、個人にさまざまな仕事の依頼が来る状況を作る必要があります。

MBAでは、経営戦略、マーケティング、会計、ファ

仕事に対する見方が変わる！

2つ目のメリットは、仕事に対する見方が変わる点です。組織に属して仕事をしていると、一つの職能（職種）に属することになります。例えば、営業職は営業部門、マーケティング職はマーケティング部門、研究開発職は

イナンス、組織論、組織行動学、情報技術などについてケースメソッドなどで学びますし、さらに修士論文作成が課せられていますので研究もおこないます。これらの学びの成果を、論文の学会発表、学会誌掲載などで公開する機会があります。また、本の執筆の機会もあります。学会発表、学会誌掲載、本の執筆などを通して、社会における自分ブランドが確立するのです。自分ブランディングができれば、組織に依存せずに、自律して自由に生きていくことができます。

研究開発部門という形で、一つの職能部門に属します。これですと、営業職は営業のことしか知らない、研究開発職は研究開発のことしか知らない、という状況が生じます。ただ、営業職とは言え、自分が売った結果、会社

の業績はどうなったのか、という会計的な視点は必要です。また、自分が売った商品は、顧客ニーズを踏まえるとどんな点を改善すべきか、といった製品開発の視点も必要です。

さらに言えば、自分の会社が今後長期にわたって安定的に成長していけるのか、ということを考えるには、経営戦略、組織戦略などの視点が必要になります。結局、営業という一つの職能であっても、営業マンとして高い

キャリアチェンジ！

3つ目のメリットは、キャリアチェンジができることです。大幅なキャリアチェンジは30代前半までですが、MBA取得は、すべての人にとってキャリアチェンジのキッカケになります。30代前半まででしたら、営業職から戦略コンサルタント、研究開発から経営企画、人事部からベンチャーキャピタルなどの大幅なキャリアチェンジが可能です。ですから、30代前半までの方で現状の仕事に満足していない方には、MBA進学をお勧めします。

40代以上になると、上記のような大幅なキャリアチェ

仕事に生きる人脈が手に入る

4つ目のメリットは、仕事に生きる人脈が手に入ることです。MBAを修了した方々は、自律して会社に依存せずに生きていく人が多いです。そういった方々との人脈は、仕事にダイレクトに生かすことができます。大企業に属している場合、MBAで知り合った友人の会社とコラボレーションして何か新たなことをしたいと考えたとしても、会社の稟議書などがあり実現するのは難しいです。

一方で自律して個人で仕事をしている人同士がMBA

成果を出すためには、企業経営に関する全般的な知識（経営戦略、マーケティング、会計、ファイナンス、組織論、組織行動学、情報技術など）が必要になるのです。この経営全般の知識を学ぶことができる場が国内MBAであり、国内MBAで学ぶことによって、一つの職能という単眼的な視点で仕事をおこなうのではなく、経営戦略、マーケティング、会計、組織など複眼的な視点で仕事をおこなうことができるようになるのです。

ンジはできませんが、ベンチャー企業の経営者になるとか、独立するという選択肢があるため、キャリアチェンジは可能です。40代のサラリーマンで、大企業に勤務していた方が、ベンチャー企業の経営者としてヘッドハンティングされた例がありました。50代では、サラリーマンの方が定年後にコンサルタントとして独立した例もあります。このような形で、全年代の方に、MBA進学はキャリアチェンジのキッカケを与えてくれます。

で出会って、何か一緒に新たな価値創造のための事業を立ち上げたいと考えた場合は、個人間の話ですので、即実現します。また、MBA同級生がある企業の人事部の部長をしている場合などは、その部長からダイレクトにリクルートの話が来ることもありますし、ヘッドハンティングの話もMBA在校生から来ることもあります。さらには、MBAの教授の紹介で、ある企業に就職するといった話もよく聞きます。という形で、MBAでは、実際に生きる人脈が得られます。



まずはお気軽に

受講相談 \ 無料 /

ご 相 談 方 法



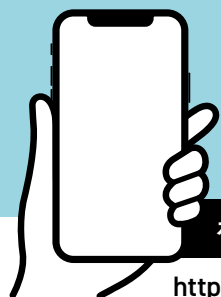
メールフォーム



Web会議ツール
(予約制)



お電話
(予約制)



- ☒ 自分に合った講座を知りたい
- ☒ どのカリキュラムが良い?
- ☒ 今からでも合格を目指す?
- ☒ 割引制度は使える?
- ☒ 資格に詳しいスタッフに相談したい...などなど

ホームページよりお気軽にお申込みください

<https://www.agaroot.jp/customer/consulting/>

アガルート受講相談 検索

スマホから



※一部の試験種はメールのみの対応とさせていただきます。

LINE

友だち登録で
最新情報をGET!



アガルートアカデミー



You Tube

受験生に役立つ情報を日々発信中!
【MBA・中小企業診断士】
アガルートの最短ルートTV



最短ルートTV | 検索

お得な 割引制度

受験経験者や他校からの乗り換え
などさまざまな割引制度をご用意!



最大 **30%OFF**

